銀河戦国群雄伝
3
ライ
真鍋譲治
COMP COMICS DX
COMP COMICS
DX
銀河戦国群雄伝ライ
3
真鍋譲治
P
CD-7-3
角川書店

●真鍋譲治作品

天の神々たち	DRAGON COMICS
銀河戦国群雄伝ライ❶❷❸❹❺	COMP COMICS DX
ジャンクパーティ❶	DRAGON COMICS

●COMP COMICS DX

サイレントメビウス❶❷❸❹❺	麻宮騎亜
精霊伝説ヒューティー❶❷❸	大野安之
ドラゴンウォーズ	杉田流仙
エルデガイン❶❷❸	円 英智
イース❶❷❸❹	羽衣 翔
地球防衛少女イコちゃん❶	あさりよしとお

コミック
月刊コンプ
毎月26日発売 角川書店

角川書店
定価920円
本体893円

ISBN4-04-712017-0 C0379 P920E

COMP COMICS

銀河戦国群雄伝ライ

3

真鍋譲治

CD-7-3
角川書店

by Joji Manabe

銀河戦国群雄伝 ライ

JOJI MANABE

ANRI KOMATSU
NAOAKI ARAKAWA

TETSUYA ASAKURA

MASAHIKO YAMASHITA
HIROYUKI HIRAYAMA
YUSUKE MATSUO
HIDEMASA IDEMITSU

竜我雷（りゅうがライ）

本編の主人公。その度胸と悪運の強さを狼刃に買われて一兵卒より師団長に抜てきされ五丈軍先鋒として南天に雪崩込む。想像以上の働きを見せるが正宗の策略にはまり第3軍共々、座王都で包囲される。

麗羅（れいら）

男勝りの五丈の姫君。強大な権力を背景に我がまま し放題である。雷には興味を持ち、ちょっかいを出し紫紋とよく対立する。

紫紋（しもん）

敗将阿蘭主禅の一人娘。皇室の血を引く唯一人の王女故に悲しい運命にもて遊ばれる悲劇の娘である。

太助（たすけ）

雷と同郷であり、幼い頃から雷を兄として慕う。

雲海入道（うんかいにゅうどう）

雷の長年の戦友。大酒飲みの破戒坊主だが雷にとっては最も頼りになる豪傑である。

比紀弾正（ひきだんじょう）

元神聖銀河帝国左将軍。帝国崩壊後兵を挙げたちまちのうちに北天を制圧、天下統一のために南天攻略に向かう。

孟閣（もうかく）

4077部隊の副団長。冷静で勇猛な豪将であり経験不足の雷を適切に補佐する。

骸羅（がいら）

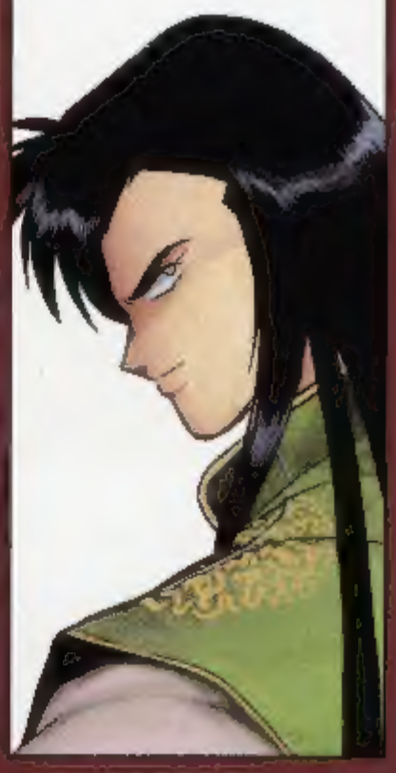
五丈四天王の一人。身の丈2伝以上の体格と怪力の持ち主。後詰めの赴陣に大いに不満で勝手に進撃し狼刃と激しく対立する。

狼刃（ろうは）

五丈四天王の一人。知勇を兼ね備えた女将であり、雷の才能を早くから見抜き、その行く末を暖かくかつ厳しく見守る。雷も彼女だけには頭が上がらない。

独眼竜正宗（どくがんりゅうまさむね）

弟虎丸を擁して智の国の国政を司る。その戦略、行動力で弾正に対抗できる数少ない人物。南天連合の総大将。



玄偉（げんい）

五丈四天王の一人で凄腕の謀臣。弾正に南天からの早期撤退を勧める。その才覚故に他の将軍達とあまりうまくいっていない。

鳳鳴（ほうめい）

五丈四天王の筆頭将軍。序列上では弾正に次ぐナンバー２の地位にある。玄偉の台頭を恐れ警戒している。

虎丸（とらまる）

正宗の弟だが幼いので国政には関与していない。

儒李（じゅり）

智の国の重臣。正宗の命により羅候の目付け役として派遣される。

雷神（らいじん）

愚鈍な明国国主。名門の生まれだがその家名のみで正宗に対抗する。

飛竜（ひりゅう）

正宗の側近で知恵袋。親衛隊長として常に正宗の側にあり犬馬の労を惜しまない。雷の猛攻より正宗を守り抜く。

剛志（ごうし）

孟国国主。南天連合の一角を占める。

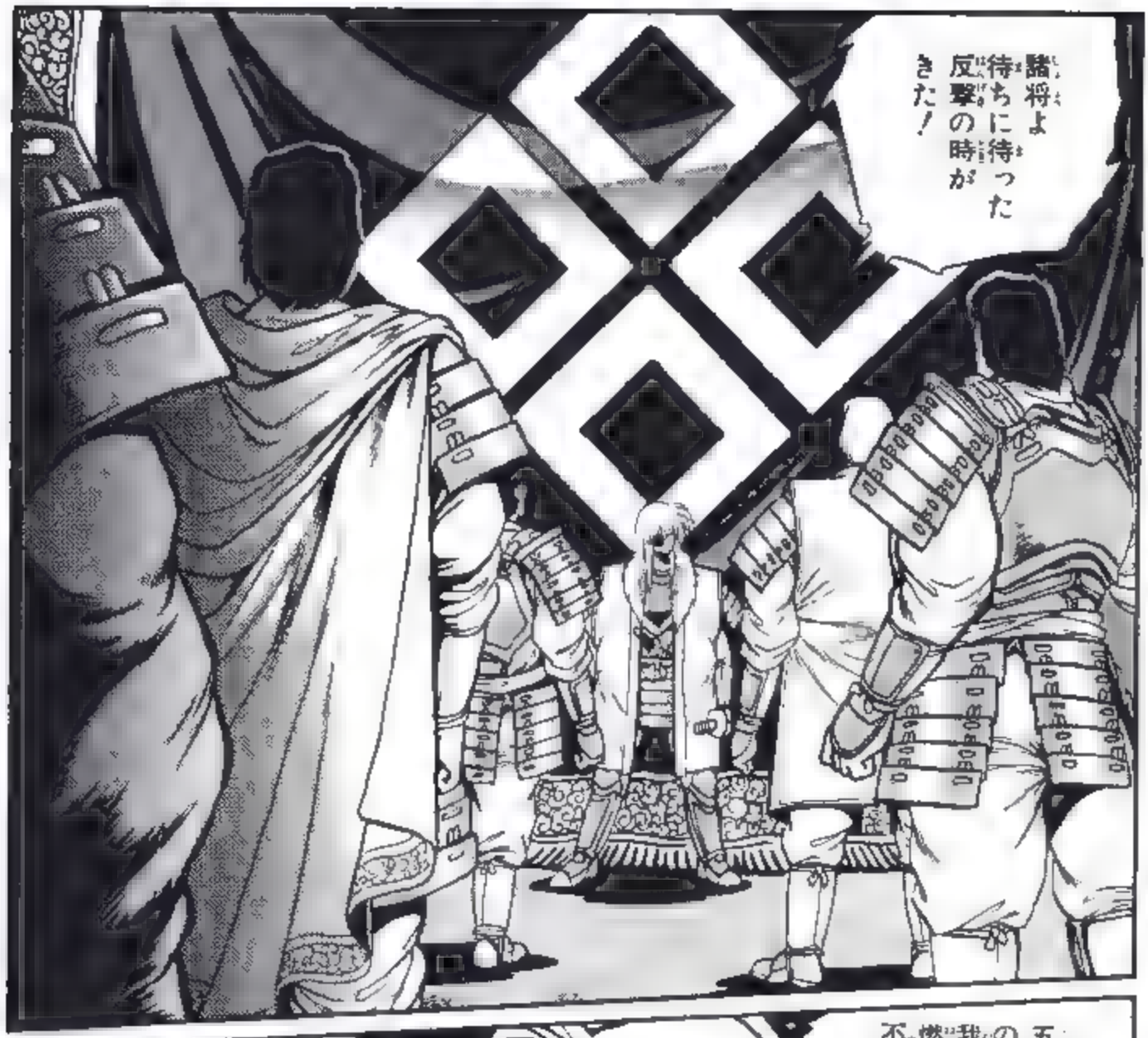
羅候（らこう）

練国国主。父羅鎧の死後、兵権を受け継ぐ。敵である狼刃を付け狙い守ろうとする雷と一騎討ちを繰り広げる。

曹州（そうしゅう）

趙国国主。南天軍反攻の先陣を務め羅羅軍と激しく激突する。

紀霊元年――
神聖銀河帝国に代わって銀河統一を目論んだ
元帝国将官・比紀弾正は
北天を制圧後
五丈軍を引き連れさらに南天の諸国へと攻めのぼった
そして、元突撃中隊の一兵卒にすぎなかった
竜我雷を先鋒の師団長とする五丈軍第三軍団は
ついに南天軍の最大拠点・座王都を陥落させたかに見えたが
すでにそこは空城であり
雷たちは不足した燃料や弾薬も補給出来ぬままに
独眼竜正宗率いる南天軍に包囲されてしまったのである――

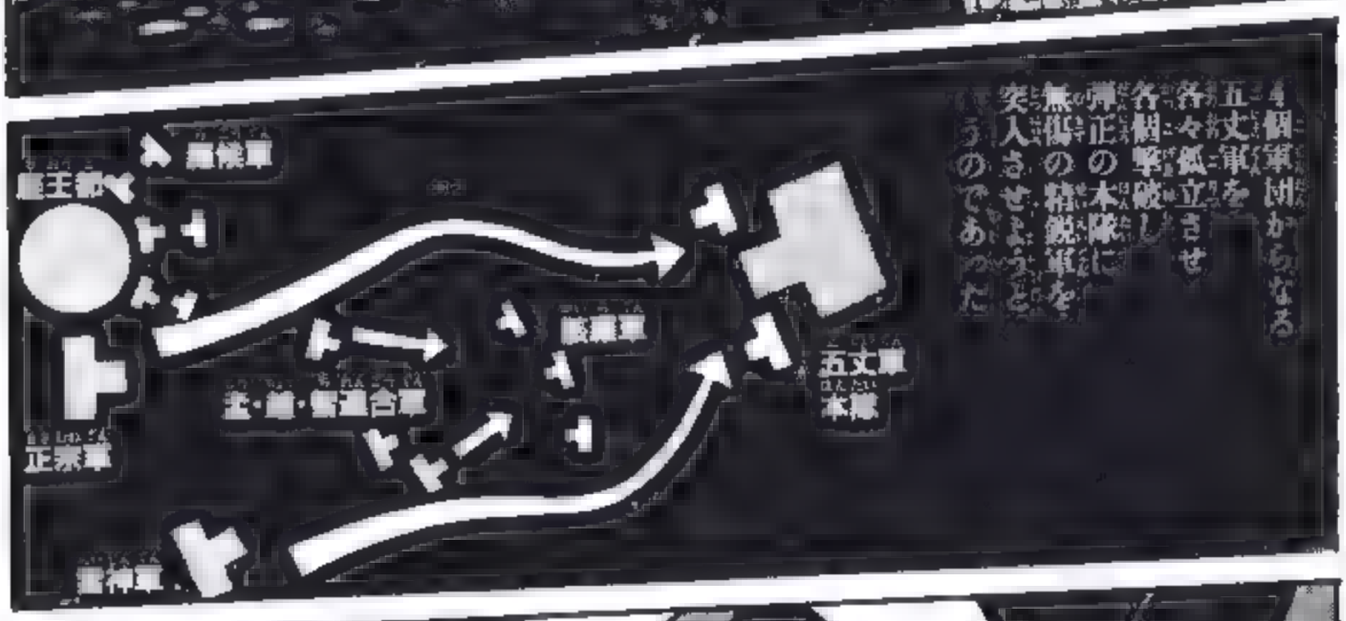

諸将よ
待ちに待った
反撃の時が
きた！

五丈軍は
のび切った補給線と
我が軍の妨害で
燃料・弾薬が
不足してるだろう
また 各軍団の
連絡も
とれておるまい
一気に五丈軍を
撃ち破るのは
今だ

座楽！
修理！
はっ!!
おまえ達は
各々7個師団で
剛志・薩州軍と
共に骸雁を
たたけ！
わかりました！
峰索！
きさまは
10個師団を
もって
我が先鋒を
つとめよ
五丈本隊に
向かえ!!
ははっ
浪平！
きさまは遊軍となり
落ちのびる
敵軍を始末しろ
降る者があれば
味方に引きいれろ
おおせの
とおりに
いたします
残りの将は
俺に続け！
敵中突破で
五丈本隊と
決戦だ！

いいか
狙うは比紀弾正の
首一つ！
五丈の首都
武王都に
我ら智の
四つ目ゆひの
旗を立てるんだ!!
他の国に
遅れを
とるな!!
飛竜
他の国主達にも
総攻撃を
伝えてくれ
わかりました
ただちに
いよいよ
時がきたぞ!!

軍を二つに分けた
正宗の動きは速かった
まさに疾風迅雷の
速さであろ



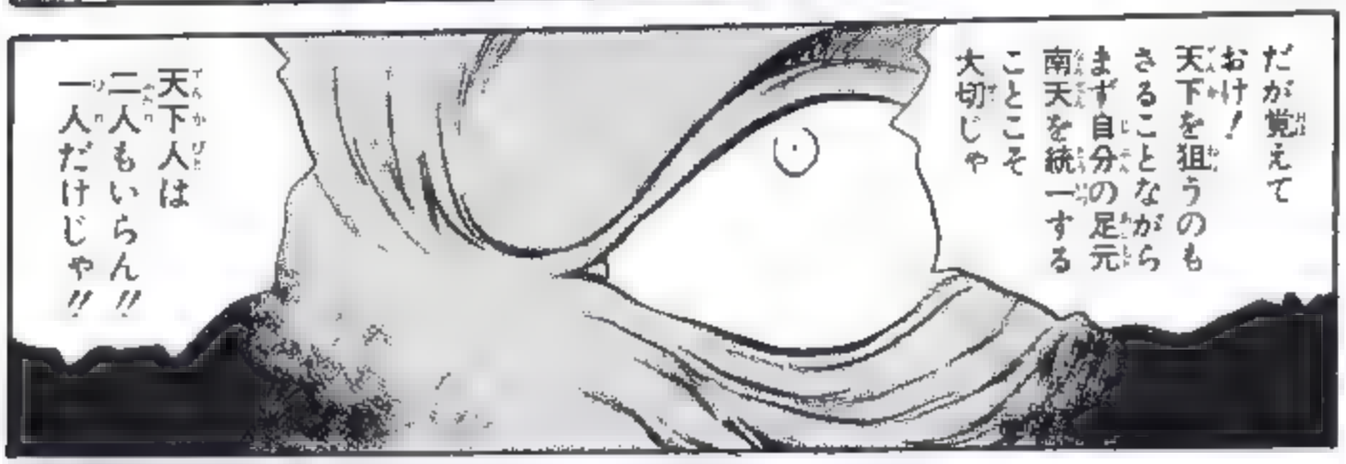
4個軍団からなる
五丈軍を
各々孤立させ
各個撃破し
正宗の本隊に
無傷の精鋭軍を
突入させようと
うのであった

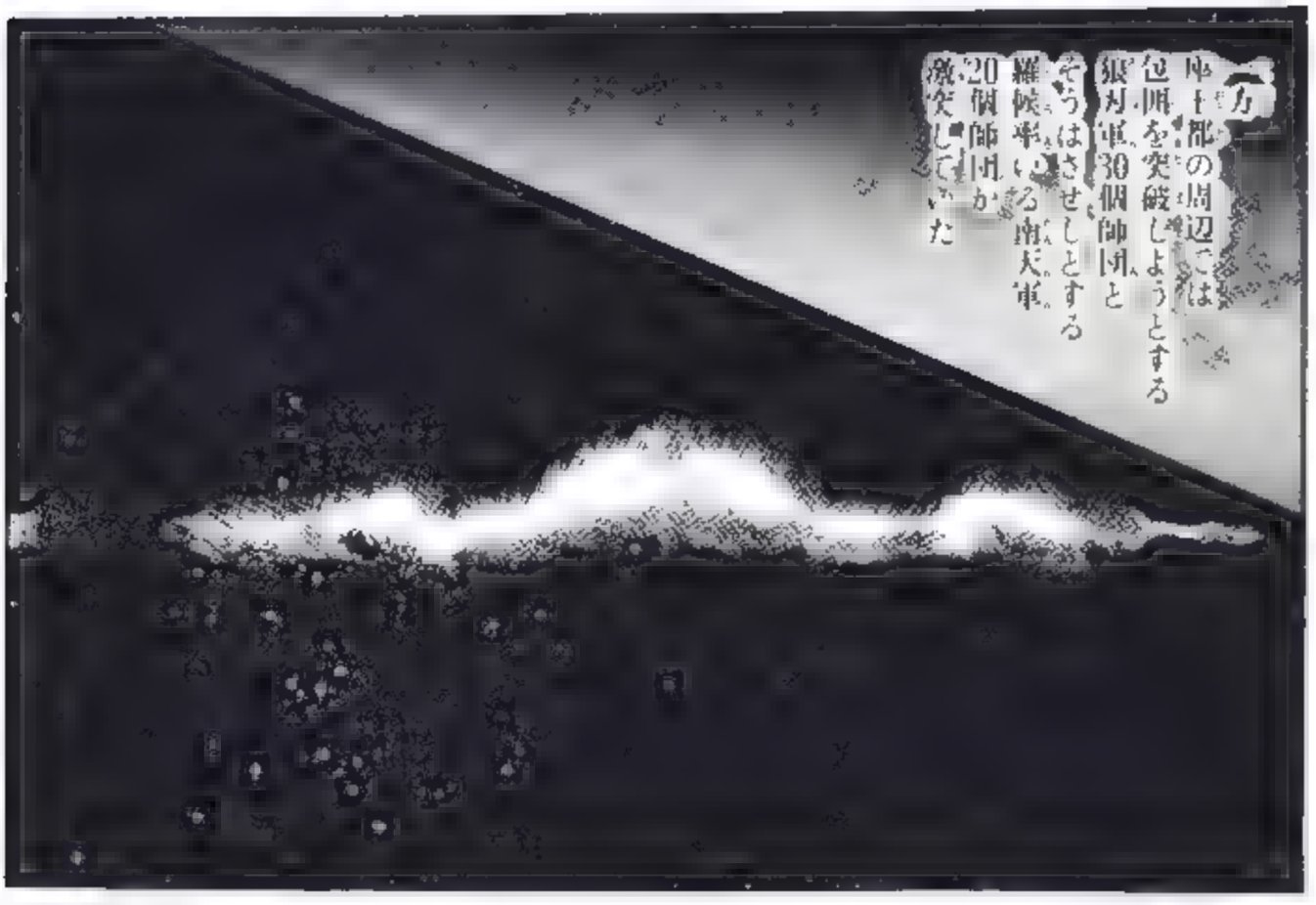
南人軍総大将
自らの出陣に
南人軍の士気は
いやが上にも
あがり

一方
正宗の
総攻撃の檄文は
各国々主の
元に届いた

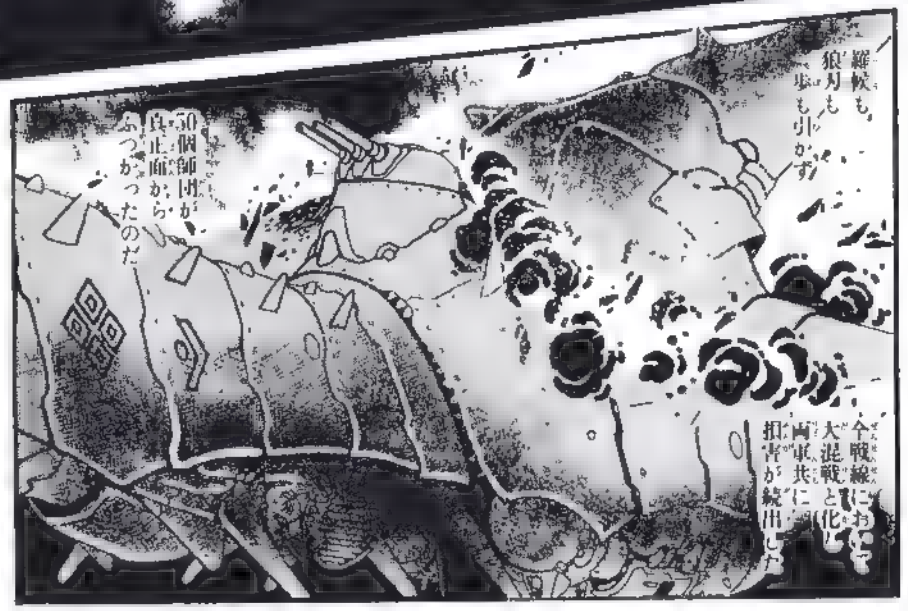
おお！
いよいよ
総攻撃か
腕がなってなって
がまん
できなかった
ところだ
孟国々主
剛志
よくわかった！
ただちに
出陣すると
正宗殿に
伝えよ
趙国々主
雷州
なんだと
こんなことが
のめるか!!
明国々主
雷神
お館様
どうなされました
どうもこうも
ない
この正宗の
檄文を読んで
みい!!
これは
我が軍に
後詰めを
要請して
おりますな
これでは
我が軍は戦功を
たてられませぬ！
あの青二才が
自分だけ
戦功をたてて
南天の盟主に
のし上がろうと
しているのだ

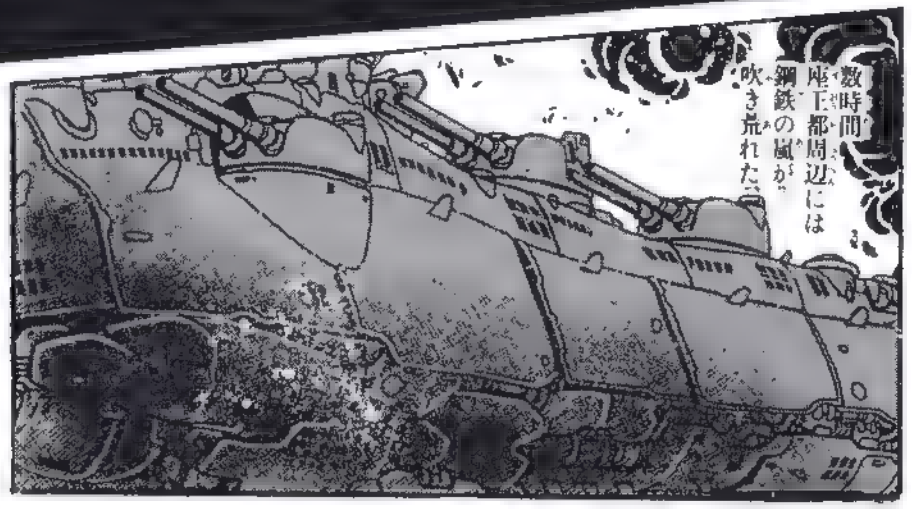
いかが
なされますか
ここで総大将の
命に従いませんと
連合軍の結束に
響きます
たしかに
今こちらが動くのは
まずい
正宗の命
しばらく
あずけておく

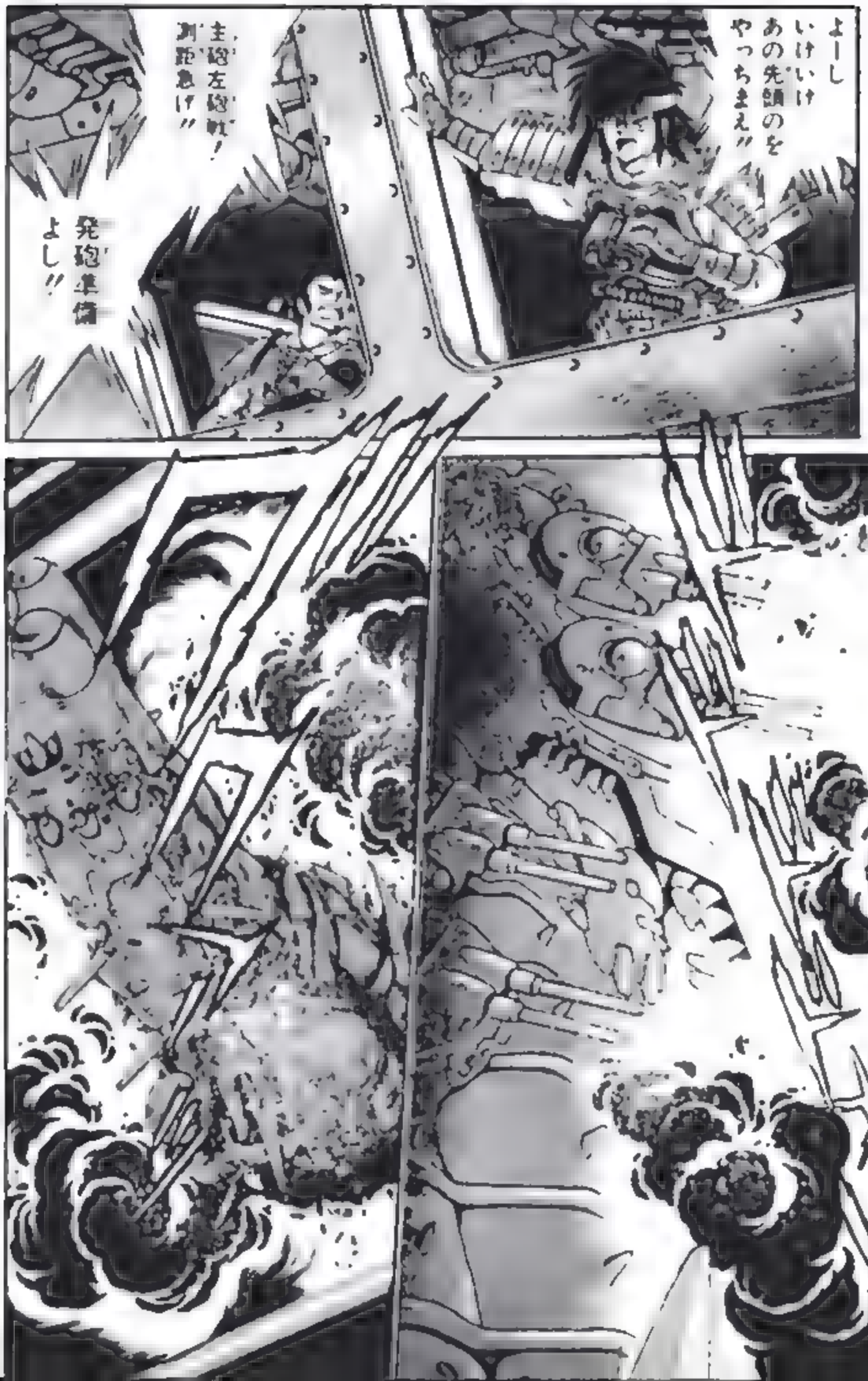

だが覚えて
おけ！
天下を狙うのも
さることながら
まず自分の足元
南天を統一する
ことこそ
大切じゃ
天下人は
二人もいらん!!
一人だけじゃ!!


一方
中十郎の周辺には
包囲を突破しようとする
狼刃軍30個師団と
そうはさせじとする
羅候率いる南天軍
20個師団が
激突していた

すさまじい
艦砲の
応戦で始まり
砲火は
全天を染めた


羅候も、
狼刃も
一歩も引かず
両個師団が
真正面から
ぶつかったのだ
全戦線において
大混戦と化し
両軍共に
損害が続出した


数時間
座王都周辺には
鋼鉄の嵐が
吹き荒れた

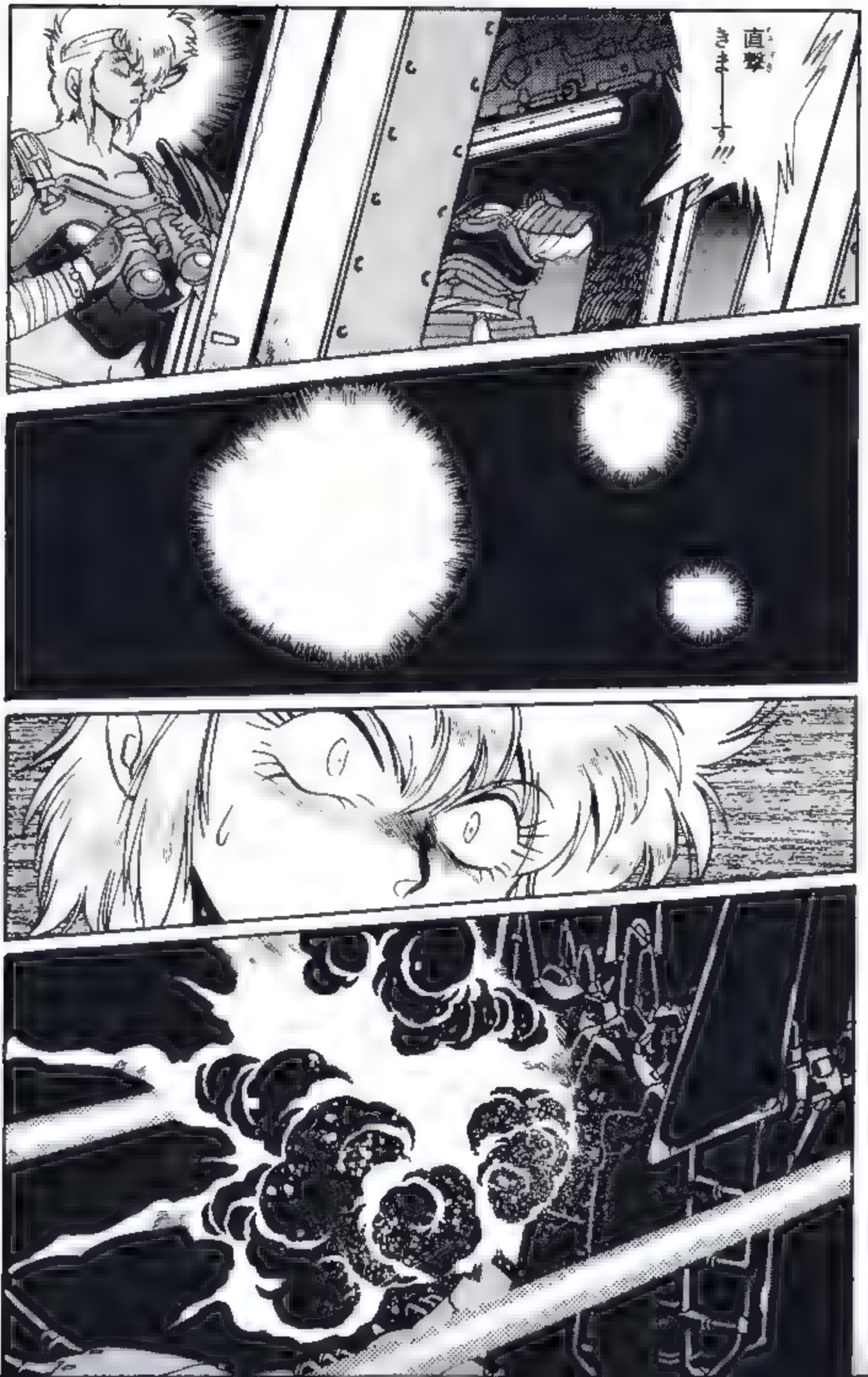

よーし
いけいけ
あの先頭のを
やっちまえ!!
主砲左砲戦!
測距急げ!!
発砲準備
よし!!

ドドドド
うわっ
ガガ

落ちつけ
――っ!!
消火するんだ
負傷者を
運び出せ!!
ボヤボヤ
するな!!

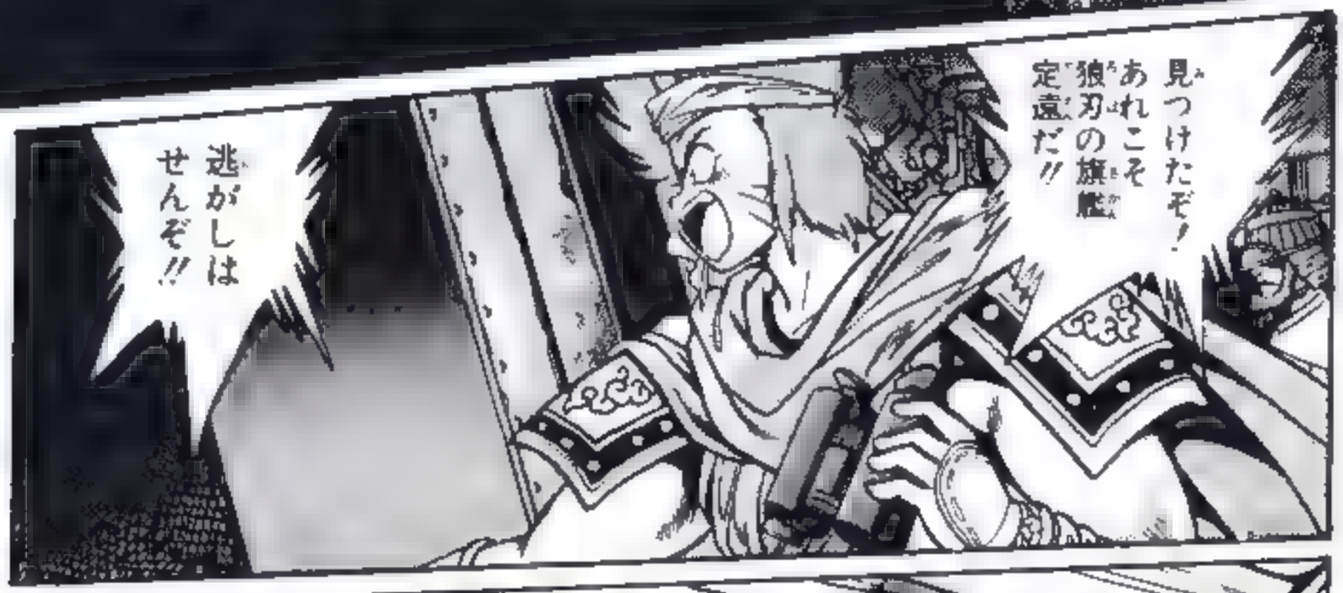
師団長
無事ですか!!
あっ
艦の損害は!?
どこやられた!!
第17番
乾室に直撃!!
左のボイラーも
やられました
火災も
発生して
います!!
くそっ
ひるむな
やり返せ!!

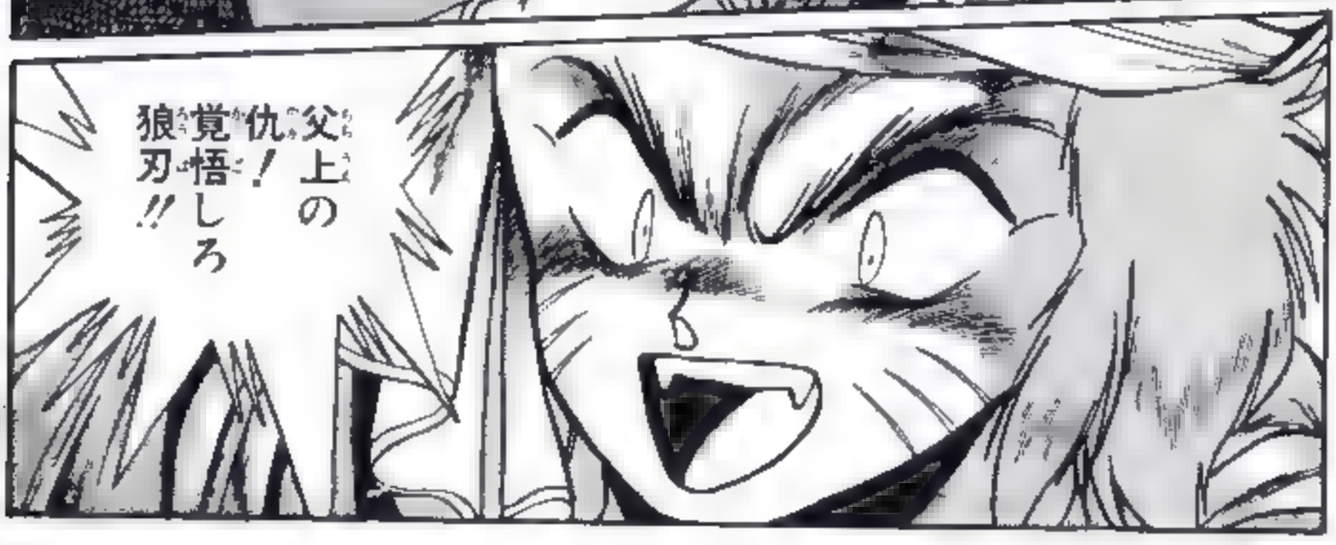
将軍！
周辺から
弾薬が
切れかかって
いると
……
まずいな
このままじゃ
突破口を
開かねば!!
ほぼ互角だな
連中の勢いは
すさまじい
ものがある


直撃きま――す!!!

将軍!!
軍医を早く!!
あたしにかまうな!指揮系統を確保しろ!
ここはもうだめです退艦して指揮をおとり下さい
敵艦1隻突っ込んできます!!

フルゴラ・オオ


見つけたぞ！
あれこそ
狼刃の旗艦
定遠だ!!
逃がしは
せんぞ!!

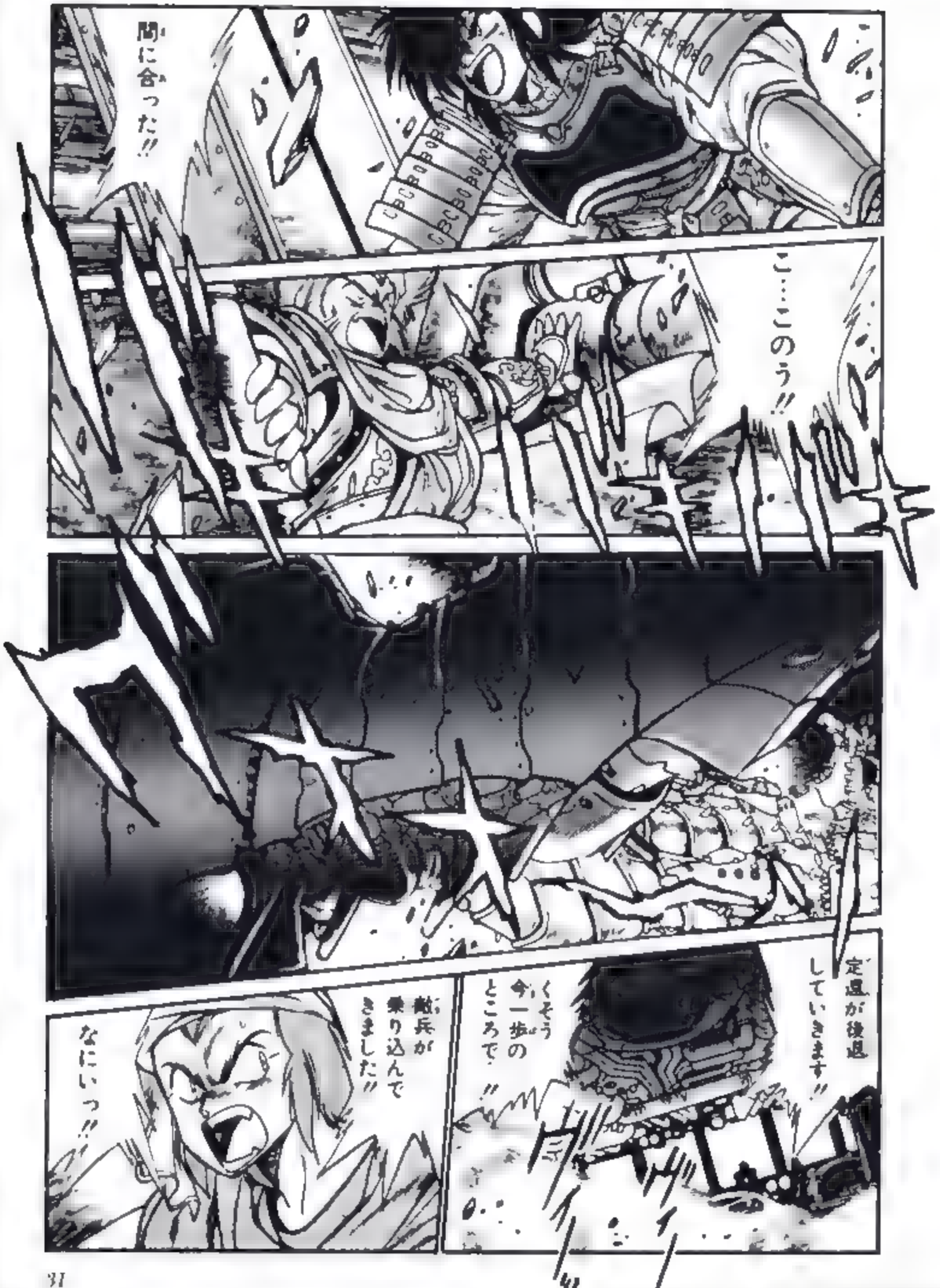

父上の
仇！
覚悟しろ
狼刃!!

いかん!!
将軍を守れ!!
近づけてはならん防げ!
師団長!
定遠が艦橋に被弾!停止しました!!
なに!!
狼刃将軍!!
ズズズズ

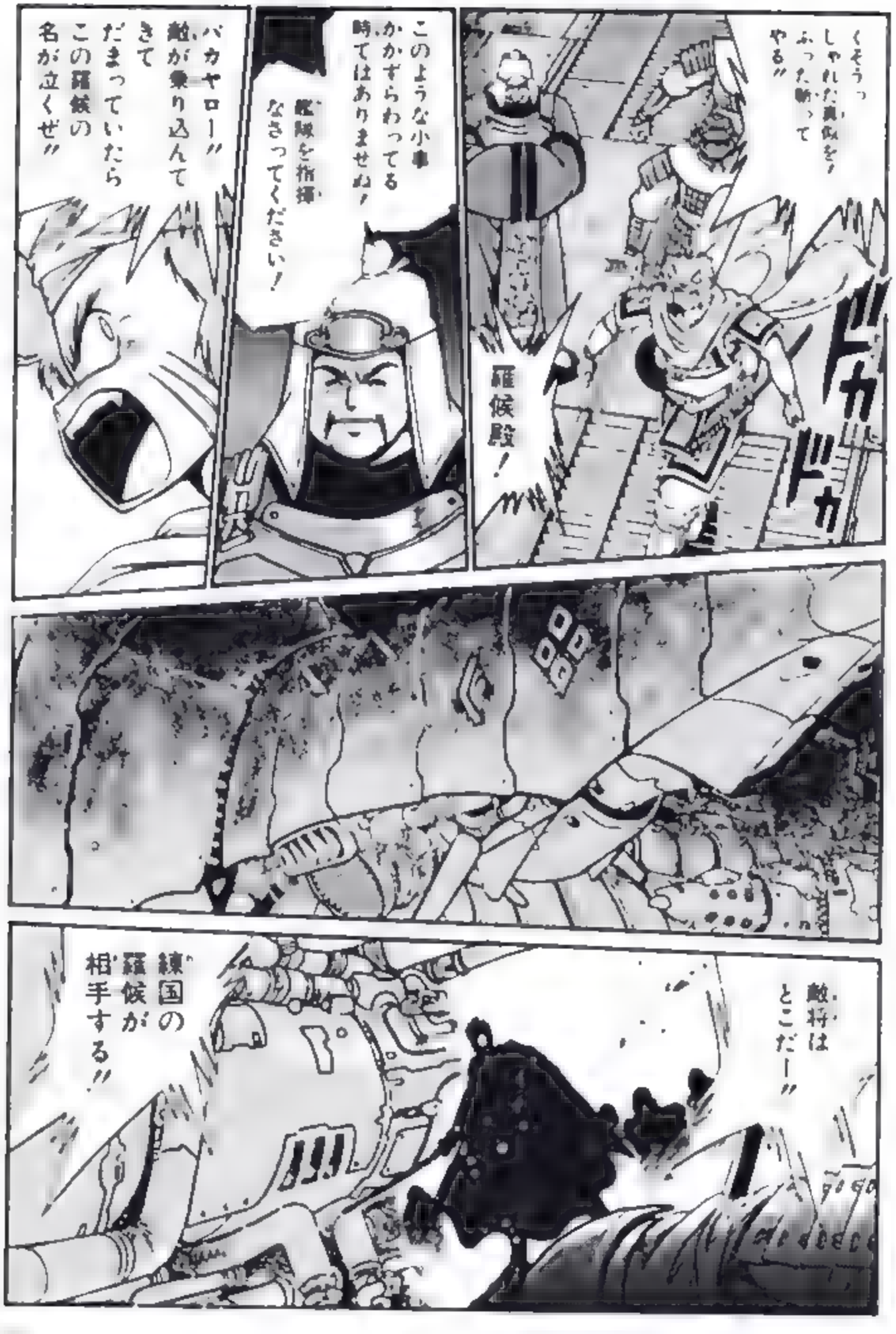
雑魚共には
用はない！
けちらせ!!

行くぞ
狼刃〃
くっ……!!
左舷より
敵戦艦〃
なに〃

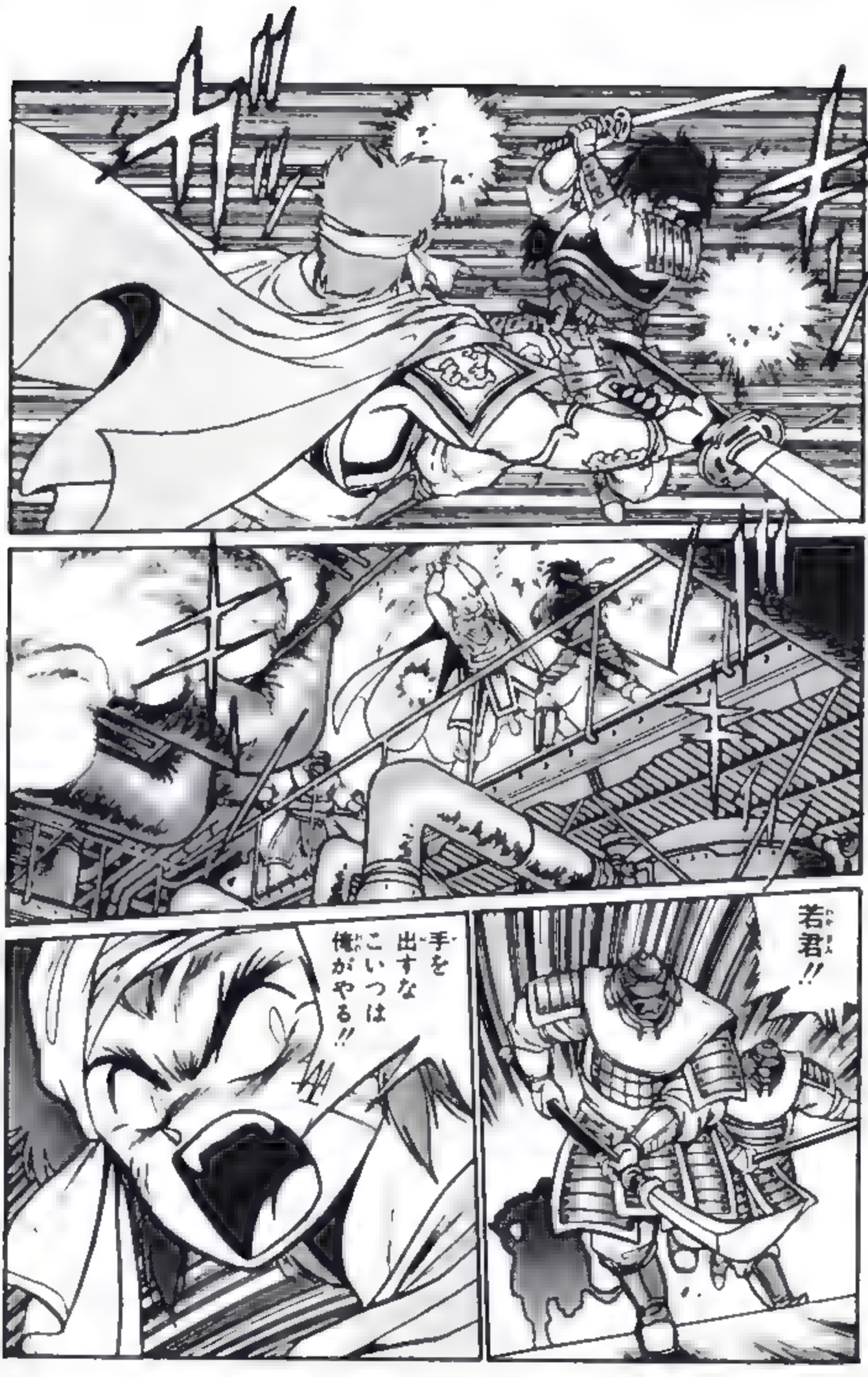
狼刃将軍！助太刀にきたぜ!!
雷か!?
邪魔させるな撃ちまくれーっ!!


間に合った!!
こ……このう!!
定盛が後退していきます!!
くそう 今一歩のところで……!!
敵兵が乗り込んできました!!
なにいっ!!

どけどけ
どけ――っ!!

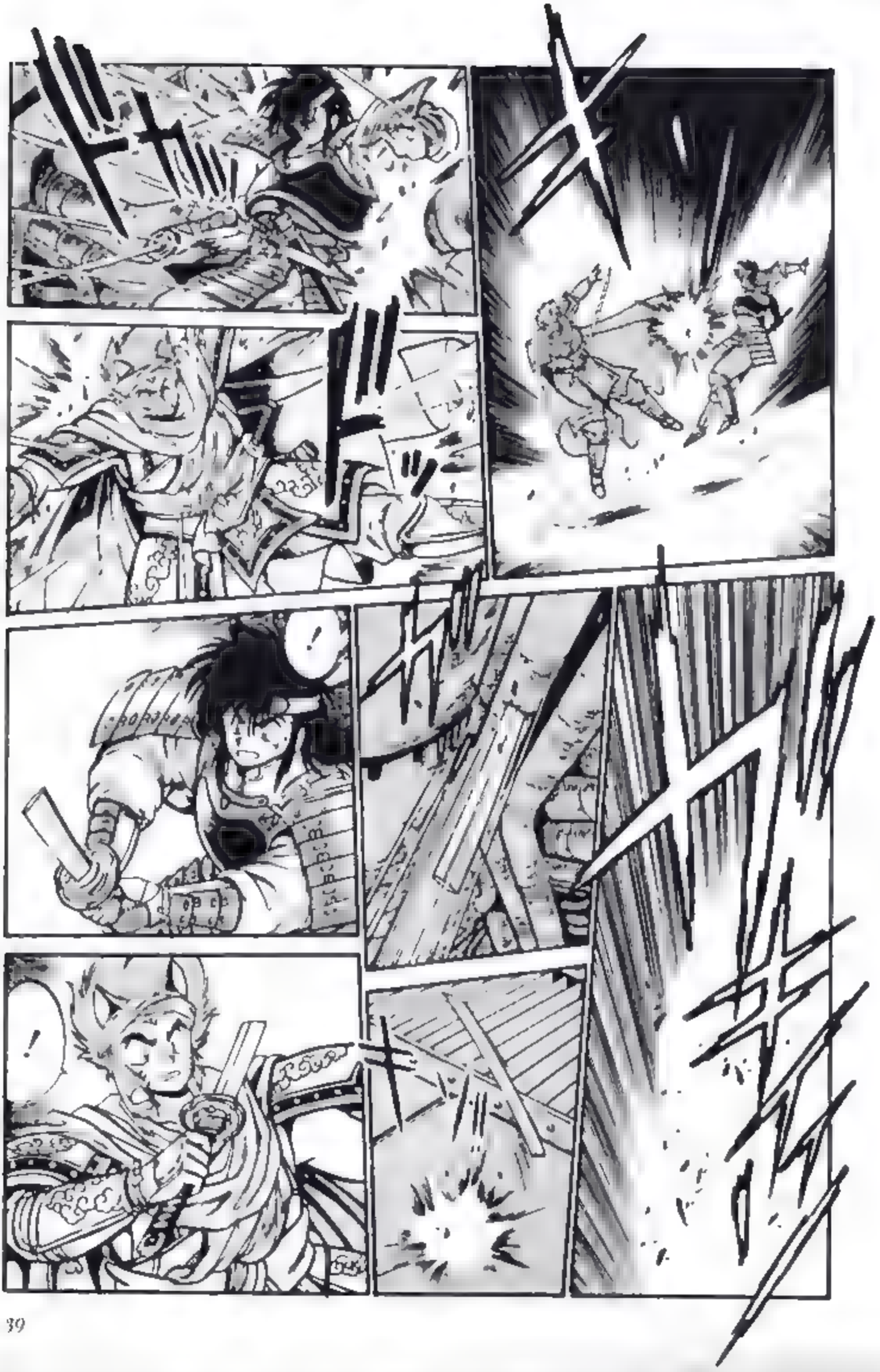

くそうっ
しゃれた真似を
ふった駒って
やる!!
ドカ
ドカ
羅候殿!
このような小事
かかずらわってる
時ではありませぬ!
敵陣を指揮
なさってください!
バカヤロー!!
敵が乗り込んで
きて
だまっていたら
この羅候の
名が立くぜ!!
敵将は
どこだー!!
練国の
羅候が
相手する!!

!!
おまえが南天軍の大将か!? 相手にとって不足はねえや!!
だまれこわっぱーっ!!
俺は五丈軍先鋒竜我雷だその首もらうぜ!!


若君!!
手を出すな
こいつは俺がやる!!

無理するな
俺は
何人相手でも
かまわねえぜ
ええっ!?
大口
たたけるのも
今のうちだ!!

キィン
ギリギリ
いい腕だな…
為留めがいがあるぜ！
てめえこそ
手応えがあって
うれしいぜ!!



ちくしょう
まだ勝負は
ついてねェ!!
槍もって
こいっ!!
けっ!
俺の槍だ
いそげ!!
師団長!!!
槍もって
こいって
いってるだろ!
撤退命令です
ただちに引き上げて
艦隊にもどるように
とのことです!!
なにいっ!!
バカな!!!
狼刃将軍直々の
御命令です!!
あ――っ
わかってるよ!!
よーし
引き上げだ
金剛に
もどれ!!

引き上げだ
にがすな 追え!!
一人残らず 殺せ――っ!!
羅候!!
俺一人ならいつまでもきさまの相手になってやるが軍命は軍命だ
ここは引かせてもらうぞ!!

だが
この次会ったら
その首
ぶった斬ってやる!!
まていっ
逃げる気か!!
勝負つけて
やる!!
羅候殿!!
またおまえか!?
艦橋に
おもどり
下さい!
一国の君主とも
あろうお方が
軽々しくも
敵兵と刃を
交わすものでは
ございません!
これぞ
匹夫の勇にも
劣りますぞ!!
きさま~~っ!
匹夫の勇
だとお~~っ!!
それに
正宗様より
命令がきて
おります!
正宗公から?
……

よかろう！
艦橋に
もどる
お聞き入れ
下さり
うれしく
思います
竜我雷…
忘れんぞ!!

こうして
二度目の会戦は
双方に相当の
犠牲を出して
共に事を引いた
この戦いで
第一軍団の
弾薬は
ほぼ底を
ついた
いよいよ脱出は
むずかしく
なったな
将軍
おけがの方は
こんなの
カスリ傷だ
全師団長を
集めたか？
はっ
大方は
ドドド

なんで引き上げを〃
もうちょっとで敵の大将を討ち取れたのによう！
落ち着け！敵の大将だと？
あ――っ！しかも練国君主羅候だぜ〃
羅候？
そうか…羅鶴の息子か…
親の仇を目にしちゃあの闘争心も理解できるな
命令さえなきゃ俺が討ち取ってたぜ！
いや引き上げてよかったんだ腕は互角だったろ
そ そんなことはねえよ〃
もう一度やれば絶対に…!!
雷！今はどうこの包囲網を突破して骸羅と連絡をとるかだ
総大将を討ったとしても突破できなきゃ意味はないぞ

そりゃそーだけど
弾薬も燃料も底をついた
だがなんとしても脱出せねばならん
やはり戦艦に残った燃料を移し
一部の艦に弾薬を集中し一か所に戦力を集中して突破するしかありません
連中の目を引きつける必要がある
この定遠を使おう!
それがしに兵100をお与えくだされば定遠を使い南天軍をおびきよせます
やってくれるか!
将軍のためならよろこんで!
すまんおまえの忠誠無駄にはせん
・・・
殿軍をつとめる奴はいるか!!

俺がやる!!
雷
おまえが?
おうっ!
まかしといて
くれ!
艦はまだ
健在だし
弾だって
少しは余裕が
あるしさ!!
俺に
やらして
くれ!!
!
……
それに
先鋒として
この南天に
一番乗りしたんだ
一番長く
ここにいるのは
やっぱ俺達だぜ

よし！
雷
おまえに
殿軍を
命じる！
まかせたぞ
！
五丈のため
戦友のために
死ね！
犬死にはさせん！
おうっ!!

なんだとーっ
狼刃を生け捕れ
だとおーっ!!
正宗公は
何を考えてるんだ!!
よりによって
親の仇を討とうと
してる
この俺にそれを
やらせるつもりか!!
羅候殿
これはあなたの
器量の大きさを
示すことですぞ
狼刃は
五丈の名将
それをただ
私怨のみで
討ち果たすは
一将の考え
国主となれば
逆に仇をも
受け容れる
器量が
大事ですぞ
だまれ!
そんなことを
我が国民・家臣が
許すものか!!

斬った
斬られたは
戦の常！
あれも羅鶴殿の
武運だったの
です
きさまーっ
我が父を
愚弄する気か!!
副将のくせに
この俺に
指図するとは
許さん!!
そこへ
なおれ!!
正すべきは
正す！
それが副将の
責務！
それがしの
言うことが
道理に合わねば
斬りなさい
ほざいたな！
きさまの
考えは
親のない者の
考えだ!!
斬る!!
若君！
お待ち
下さい
儒李殿は
正宗公の
重臣ですぞ
それが
どうした!?
ここで
正宗公と
折り合いが
悪くなれば
練国の未来に
かかわります！
若君！
敵艦隊に
動きが！
なにいっ
二隊に別れ
座王都を
離れました!!

定遠は！
狼刃の旗艦は
どっちだ!?
定遠以下
数隻の戦艦は
右翼方面に移動中！
よし！
定遠を追え!!
羅候殿！
それは
囮ですぞ！
うるせえ！
なら おまえは
自分の艦隊を
率いて
自分でやれ！
俺は狼刃を
殺す!!
軍を二手に
分けると
包囲網が
崩れまする！
俺が
狼刃を殺ったら
返す刀で
そっちへ向かう！
おまえの軍と
挟撃できる
じゃねえか！
定遠には
狼刃は
いませぬぞ!!
いや
あいつは
部下思いと聞く
自分の命と
ひきかえに
部下を逃がそうと
してるんだよ
間違いねえよ！
ばかな
そのような
甘だるい将を
なんで
我がお館様が
慕うがるか!!
また 狼刃も
了解りを
知っている！
こんな戦で
死ぬ気は
ない！

狼刃の第二軍団は
包囲網を突破すべく
行動を開始した
あの若者のことが気がかりのようですな将軍
そんな風に見えるか？

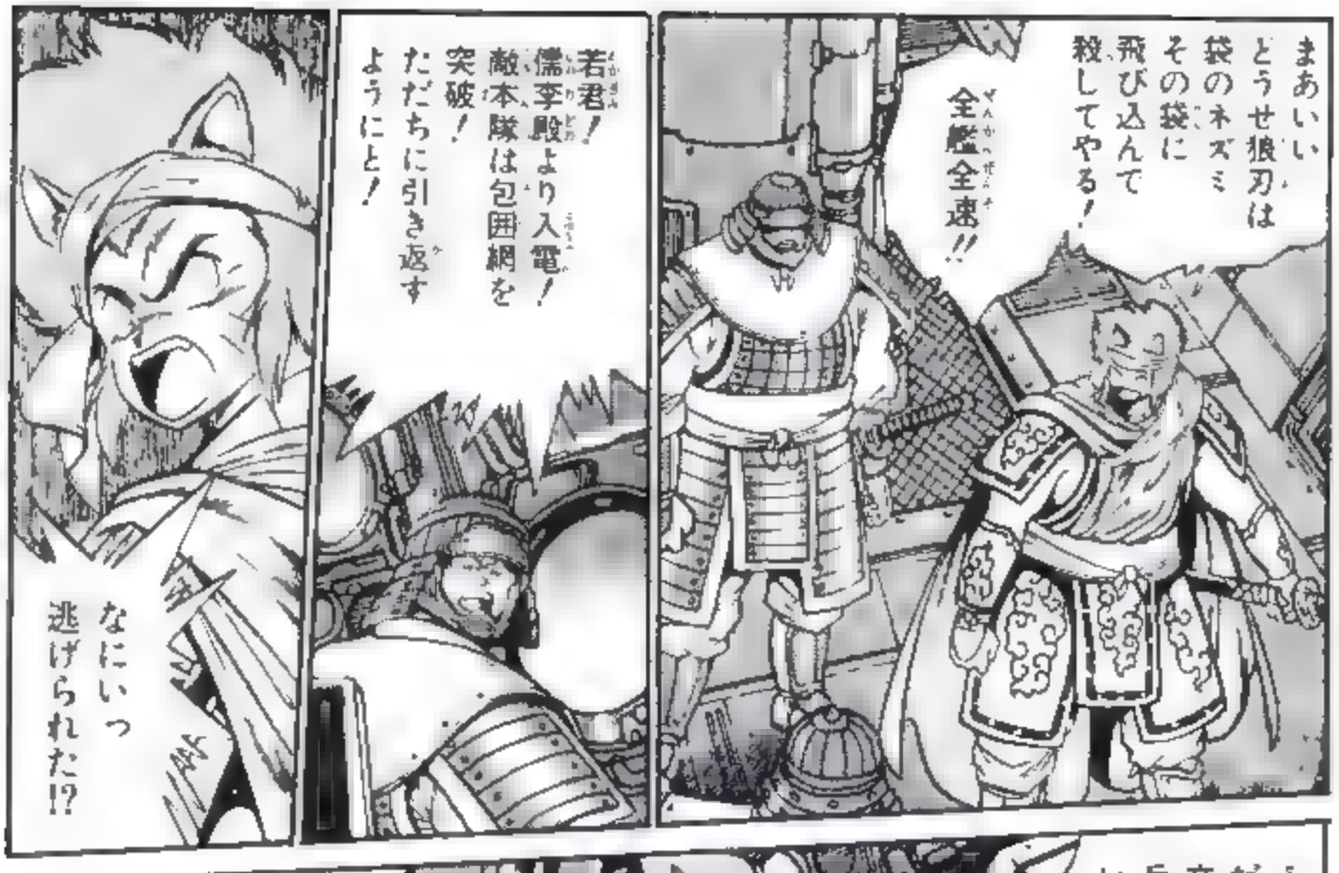
あの若者の手柄を聞くたびに見せられた将軍のお顔を見ればわかりますぞ
我が子を見守る母のようでしたな
バカ言えあたしがそんな柄か？蒲生！
ただあたしは自分の目に狂いがなかったことがうれしかったのさ
あの時、殿の御前で止めにあった時
この男の行く末を見てみたいと思った
今のような乱世は時としてああいう風雲児を生み出すものだ
その風雲児が名前のごとく竜となり雲を呼び天に駆け上がるかは奴次第だがな…
ではなぜその男を見殺しにするのですか
殿軍をまかせたことを言っているのか
あの程度で死ぬ奴なら惜しいとも思わん
あいつは生きて帰ってくるさ！

南天軍接近！
三方向より
我が進路を
塞いでいます！
ズズズ
側面に
かまうな
全速で
突っ切れ!!

こうして五丈軍と南天軍の第一会戦の火蓋が切られた
弾薬豊富な南天軍は集中砲火を五丈軍に浴びせ
五丈軍は狼刃団から槍を持ち肉弾戦で血路を開いた
だが損害は大きくかろうじて南天軍の包囲を突破した時は兵力は13に激減していた

一方
相部隊として
羅候軍を引きつけていた
定遠は
その役目を
終えようとしていた
諸君
今 狼刃将軍より
包囲網突破の
知らせがあった
諸君らの
血と汗は
報われたのだ
後は
五丈と狼刃将軍の
武運を祈ろう！

やりましたぞ
若君!!
ちくしょう!
ここには
狼刃は
いねえよ!
臭いで
わかる
いまいましい
奴だ!


まあいい
どうせ狼刃は
袋のネズミ
その袋に
飛び込んで
殺してやる！
全艦全速!!
若君！
儒李殿より入電！
敵本隊は包囲網を
突破！
ただちに引き返す
ようにと！
なにいっ
逃げられた!?

ええい！
だからあの
文官ごときに
兵をまかせるのは
いやだったんだ！
急いで追え！
狼刃を逃がしたら
俺の面目
丸つぶれだぞ!!

うわっ!!

敵艦左舷より
急速接近!!
ちくしょう
やりやがった
な!!

あの艦は
電我雷！
あいつか!!
くそうっ
追え!!
たかが1隻だ!!
へっ
1隻だけだと
思うなよ！
ゴゴゴゴ

なんだ新手か!!
2時の方向より
もう1隻突入
してきます!!
へへっ
扶桑が
やったぞ!
よーし
ずらかっちまえ!
こうして雷はたった2隻の戦艦を撃離脱の戦法を駆使することで追撃軍の足を止め殿軍の務めを果たしたのである

方
比紀弾正率いる
九丈軍本隊では
刻々と悪化する
戦況に騒然と
なっていた

なにっ!!
狼刃が
座王都から
撤退した!?
燃料・弾薬共に
乏しく
これ以上の進撃は
無理!
包囲される前に
脱出すると…!!
申し上げます!
第四軍団前方に
新手!
このままでは
突破されます!
さらに後方に
敵主力と思われる
艦隊を確認!
中央を突破し
本陣に向かう
模様です!
むう…
なんということだ
諸戦であれだけの
損害を受けながら
まだそれだけの
兵力をかかえて
いるとは…
何もかも
狂って
きておる!!

諸将よ これは容易ならざる事態だ！
ただちに軍を立て直し南天軍を撃滅せねばならん！
殿 お言葉を返すようですが：
もはや攻勢に出る時ではございません
すみやかなる撤退が必要です
撤退だと！
玄偉将軍！何を申されるまだまだ我が五丈には無数の精鋭がいるのですぞ!!
それがしの主張には三つの根拠がございます！

ふむ
ならその三つの
根拠を申してみよ！
ではまず一つ！
我が軍は勝機を失っておりまする
我々がこれだけの兵力を集結させたのは一気に敵を撃ち破り南帝闕を陥すいわゆる短期決戦のため
だが攻勢が頓挫しもはや攻撃衝力を失った我々にはもはや問題外
二つ目は長く都を開けておく不安です
北天も決して安定しているとは言えませぬ
また知謀に長けた正宗のこと何かしら北天内部を揺さぶろうとするでしょう
両軍がっぷり四つに組んだ場合長期戦になりまする
さらに三つ目は
長期戦になった時の殿の威信です

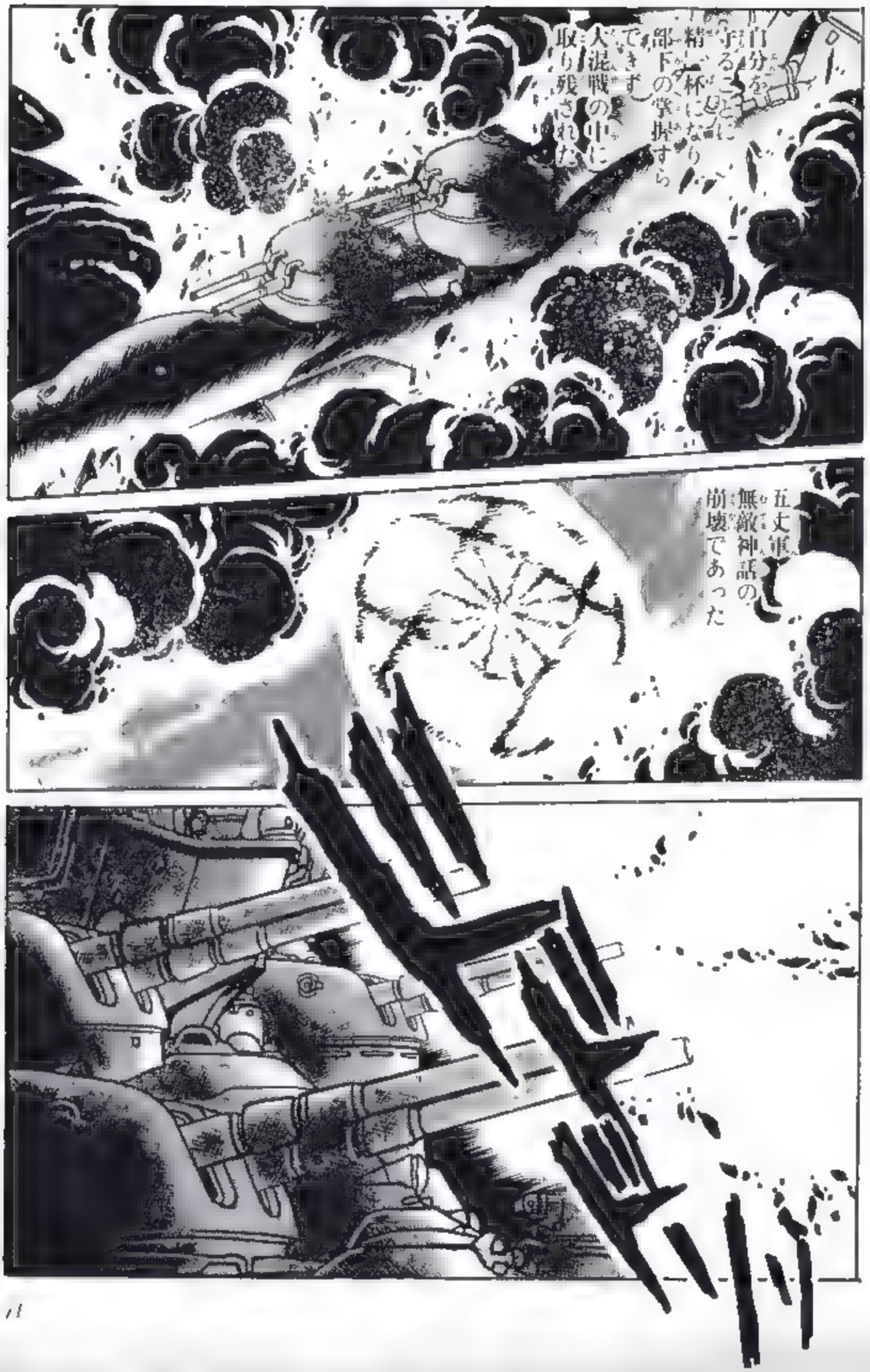
この度の戦は
まず 我が軍の
勝利に終わり
畿河が統一されること
人民は疑って
おりませぬ
しかし
戦が長びけば
不信を抱き
殿の威信は
日に日に低下して
いきましょう
……
だが我々は
南天軍に
大損害を与え
一度は座王都を
占拠しております
ここで
軍を引き
正宗に上洛を
命じたなら
この戦
南天への懲罰と
世間は見ましょう
殿の威信にも
傷つきますまい
以上三つの
根拠にて
わたしは
撤退を
おすすめ
いたします

今の玄偉の考え皆の者はどう思う
はっ 殿 言われてみますれば将軍の申すこともっともかと…
残念ではございますが追撃を受けぬうちに撤退し国境の守りを固めるべきです
そうか皆も同意見ならやむを得まい
たしかに我々は南天・正宗を甘く見ていたようだな
よし玄偉そちは全力を挙げて孤立した兵を救い出せ
鳳鳴 そちの軍は一足先に撤退し国境を固めるのだ
残りの者は敵の追撃を防ぐよう兵を配備せよ

はっ
ただちに！
全銀河統一への道はまだまだ険しいようじゃな・
だがこのぶざまな戦いわしの慢心へのいましめとしておこう

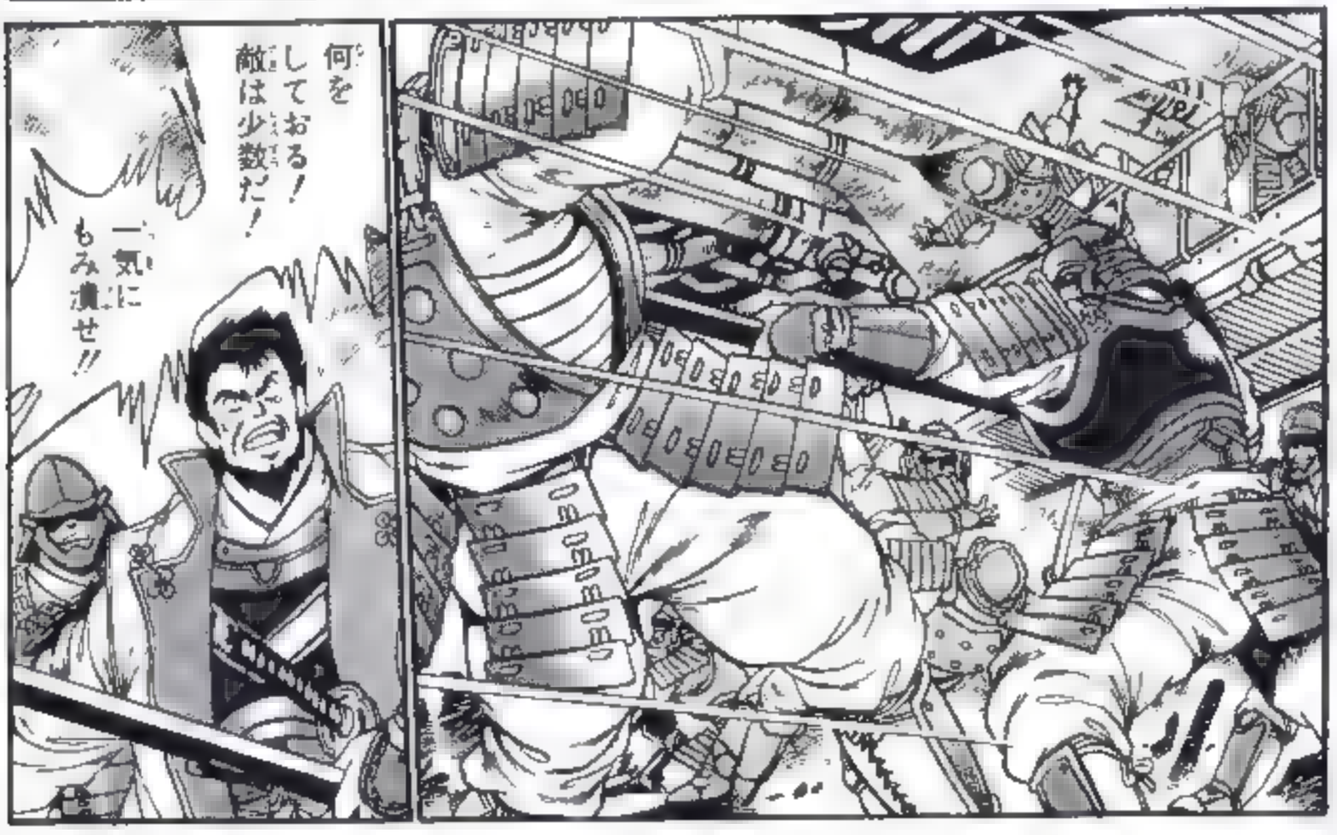
たか戦況は五丈軍本隊の撤退さえも危うくなっていた

渦を持していた
南天軍精鋭は
補給線がのび切り
連戦で弱体化して
五丈軍の前線を
簡単に突破し
その本陣は
せまった
最弱した
五丈軍に昔日の
面影はなく
各軍連絡を
取れぬまま
各個撃破
されていった
また
燃料切れで
立ち往生する
艦が続出
撤退も
ままならな
かった
狼牙も
骸羅も


自分を守ることに精一杯になり部下の掌握すらできず
大混戦の中に取り残された
五丈軍無敵神話の崩壊であった

くそうっ!!
ハゴオッ
他の連中はどうした! 集結させろ!!
しかし各地でズタズタに分断され連絡すら取れませぬ!
おのれ正宗が〜っ!!
この俺をナメやがって〜っ!!
将軍 左舷11時の方向 敵戦艦が反航しています!
なにっ!!
ズズズ〜

あの紋章は…
趙の青州の旗艦か…!?
ふふん
この俺も
まだ運に
見捨てられて
なかったようだ
左反転!!
両舷全速!!
青州の首を
もらいに
いくぞ!!
殿!
後方より
敵戦艦
高速接近中!!
なに!!
うわっ!!


何をしておる！敵は少数だ！
一気にもみ潰せ!!

どけどけ
どけーっ!!
この俺の
道を
塞くな!!
が…餓羅!!
どわっ!!

ああっ!!
殿!!
てめえらの主人はこの骸羅が討ち取った!!
死にたくなけりゃ南天の田舎に帰れ帰れ!!
おう言わせておけば!! 殿を討ち取られておとなしく引き下がれるか!!
おまえらアホばっかりだな! ええっ!!

一方
第二軍団の殿軍として
孤軍奮闘していた山
刀折れ矢尽き
戦艦扶桑をも失い
ただ1隻金剛のみ
敵の真只中に
身を沈めていた
金剛とて
使える主砲は
艦首2門が
残すのみで
戦闘力は完全に
失っていた
燃料も底を
突き
もはや国境まで
たどりつけるのは
不可能だ

水くれ～～～
水～～～
ほれ！
し師団長、
さあ飲めよ
ただし酒はだめだぜ傷によくねーからな
すまねえ
いいってことよよく戦ってくれたな
兄き――っ！

太助
おまえも
やられたのか
ううん
かいしたこと
ないよ
こんなの
かなり
やばそうだな
雷
まあな
本陣も
総退却を
始めたってよ
兄き
なんだよ
大助
寝てろって
オイラ
まだまだ
戦えるからね!!
死ぬ時も
オイラは兄きと
一緒なんだ
からね!
死ぬ時なんて
いうな
縁起でも
ねえ!
だから
置いてかないで
くれよ!!
!
どうした
雷

クンクン
クンクン
おい あれ何やってるんだ？
戦場神経症の末期症状かよ
こっちだ!!
よーし両舷全速!! 燃料使い切ってもかまわねえ!!
針路左45° とりかじだとりかじ——っ!!
師団長!!

どこへ向かうんですか五丈の方向じゃないてすぜ〃
正宗だよ！独眼竜が近くにいるんだよ〃
しかし電探もやられてるのにまさかマストのとから見えたんてすか？
見えるわけねーだろ〃
けどよう感じたんだよ！
こう　なんてーのか臭いというかピリピリするやつをよ
感じたって
機関室――っ〃もっとぶん回せーっ〃
おいっ孟閻放っといていいのかよ
おまえ連この前雷に命を預けるっていったしゃねえか
しかし「臭い」だ「感じた」だては
俺はあいつにまかせようと思う
孟閻!!
何やってんだ斬り込みの準備しろよ準備を〃
あはあわかりやした

感じてきたぞ〜っ!!
近いぜ!!
ゴゴゴ
師団長!!
もう燃料が…
もうすぐだ!!

何にも
いねえぞ
いいや
そんなことは
ねえ〃
ほら見ろ
〃
ゴゴゴゴ

見ろ
いたぞ!!
おどろいたぜ
ひょうたんから
駒とは
このことだ…!!
宙と正小、
英傑同士にしか
わからねえ
気配を
感じたのか。
しかし
すげえ数だ、
これが南天軍の
本隊か
今、連中が一気に
襲いかかれば
五丈軍はもたねえぞ
そうは
させねえよ!!

よーし
こいつが
最後だ!!
2番砲塔の
連中とケガしてる奴
配を取る奴以外は
全員艦首へ
集めろ!!
おい 正宗が
いるってよ!
おもしれえ
目にもの
見せてやるぜ!!
機関室!
圧を目一杯
上げて
艦首へ!!

ここはもういい
舵はわしが取るおまえ達も行け！
へい！
艦長ご無事で〃
やれやれこの歳て斬り込むたぁ思っとらんかったな
いつも年寄りよばわりするなって言ってるじゃねーか
通信手！本隊突入を打電したら集まれ！
あっ師団長お待ち下さい！連絡が〃
もういい切れ〃
しかし艦隊司令部経由で武王都大本営からの直接通信です〃
あ――っくそったれ！
なんだよ！俺が竜我雷だ！
ライか!?

うちや
うちや
なんや さんざん
手こずらせてーっ!!
十日もかかったんや!
どこおんねん!!
なあなあ
手柄立てたか!?
大将の首
取ったか!?
ひ…姫さん
あのな〜〜〜
あ
ちょっと
待ってや
今 紫紋
呼びに行かす
きかい!
こら
何してんねん
早よ呼んで
こんかい!
ほんとに
つながった
の?
おー
きたきた
な!
うちの力使うたら
最前線も
隣みたいなもんや
ほら
何か
言ってみい!
ええ
いいわよ
そんな

なーに
赤くなってんねん！
話したくなかったらええねんてうちがた――っぷり話すさかい！
ちょっとちょっとだれも話さないなんて言ってないわよ
けど何て言えばいいのかな
アホ！陣中見舞いやて言うこと決まっとるやろ
わかってるわよちょっとうるさいわよ！
もしもし雷？
がんばって。

申し上げます！
蟷索殿指揮下の
先鋒隊
敵前線を突破！
敵本陣に
せまって
おります
申し上げます
座楽殿
骸羅軍を
撃ち破りつつ
あります！
ふふん…
お館様
敵は雪崩を
うって
退却し始め
ましたぞ！
この戦，
勝負
ありましたな
だが
俺はこの程度の
戦果じゃ
満足しないぞ
一気に五丈に
進出し
武王都を
陥してやるのだ

それには4国の戦力を集中する必要があります
そうだ
ではなぜ雷神を後詰めになされたのですか？
あの男前々から我々を戦わせすきをうかがって武王都に一番乗りする腹だったはず
そのような男を後陣になされたら奴の思うつぼだと思いますが
ふふ劣は少なく獲物は多くか
あの男は優柔不断だそれに徹すればよいがおそらくできまい
あいつは考えがせこいくせに気位だけは高い
奴が一番嫌うのはこの俺が戦功をたてて南天の盟主と呼ばれることだ
戦力を保持しておけばいいものをこの俺に対する競争心でもって必ず軍を動かす
世間体や目先のことしか考えられんのだ
なるほどそこまでお読みでしたか
確かにただ進軍せよと言ってもあの男は動きませんからな

見事だ
この勝ち
大将様、
かろうとも
勝いぬ
これだけの
ずをお持ち
ながら
久しい時で
あることを
悔やまれてなら
ぬ
申し上げます!!
何事だ
はっ
お館様に
至急艦橋へ
おいで
いただきたく
存じます
敵戦艦が
ただ1隻
この本陣に
突っ込んで
くるだと?
はっ
先程より電探に
前方の岩礁群より
現れました
たかが1隻
本気で
突っ込んで
こないでしょう
とりあえず
前衛軍に
警戒態勢を
とらせます
まて
飛竜!

なんだ
この感じは

妙な胸さわぎが
する

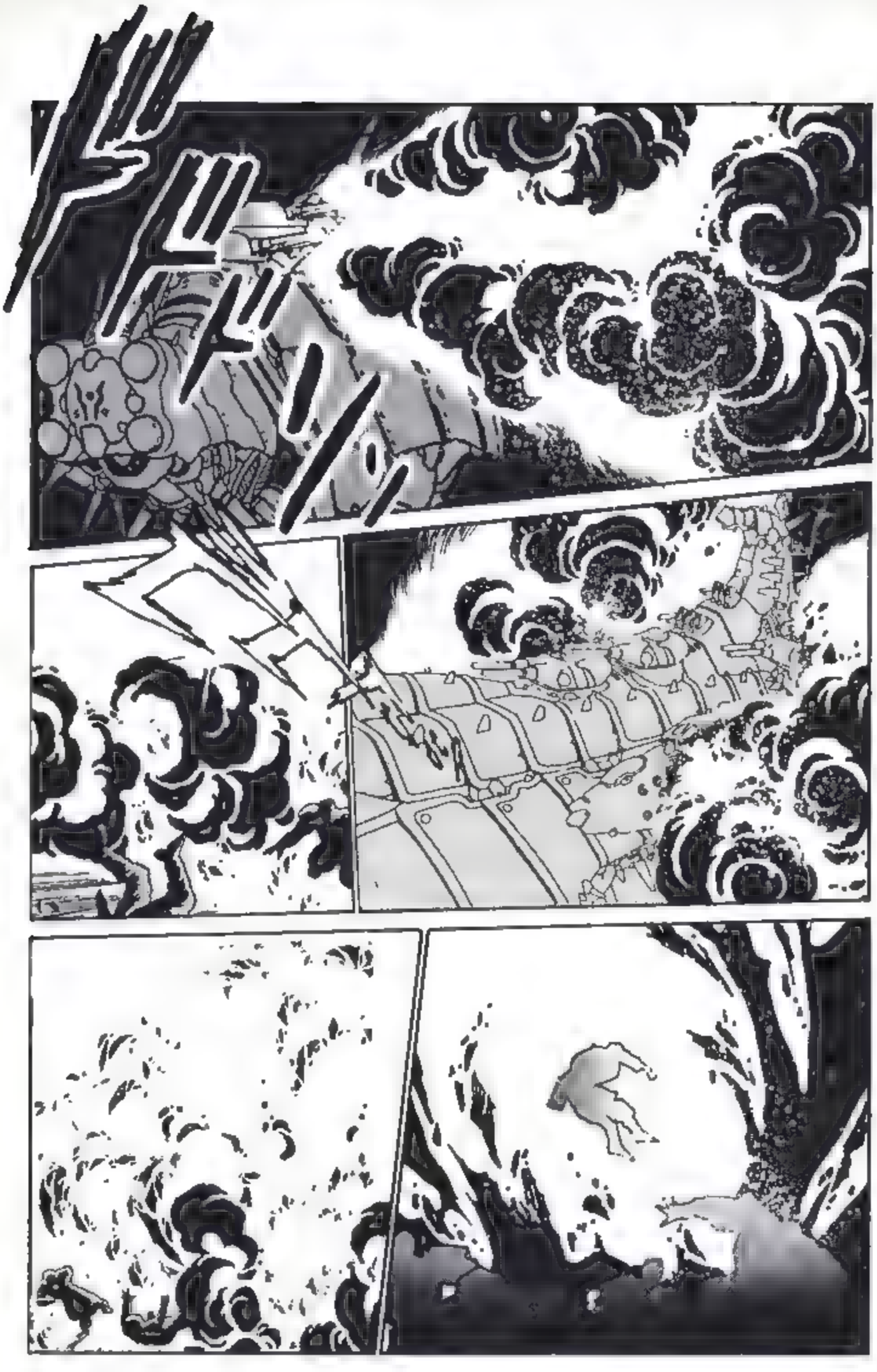
ゴゴゴ
ゴゴゴ
ふふん
なんと
いい面構えだ
これなら
やれるか

俺だ
何だ?
王権です
敵艦隊に
動きが
あります
我々に気づいて
包囲する気
ですな
正宗の
艦は
わかるか!?
道中の
行動系統を
見ていれば
見当はつきます
見事そこまで
運んで
見せましょう
頼むぜ
艦長!!
おまかせを!!
正宗
首洗って
まってろよ!!

敵艦を本陣に近づけるな！
第2中隊は右翼に回りこめ！
ブーブーブーブー

ぐわっ

うわっ!!
ぎゃあっ!!
突っ込め――っ
全速だ――っ!!


KU
FU!!

何をしておる
突っ込んで
くるぞ！
砲術長！
もっと正確に
敵を捕らえろ!!

敵艦
前衛を突破
しました!!
まっすぐ
こっちに
向かってきます!!
この俺と
刺し違える
つもりか…
ひるむなよ!
もう少しだ
もう少しの
我慢だ!!
おもしろい…
こいよ!!
正宗の
首根っこに
かみつくまでだぞ!!

お館様
少々危険に
なりました
大帝山を後退
させましょう！
ならん!!
奴らは一騎打ちを
のぞんだのだ！
智の武将として
どうして
逃げられる！
奴らとは
ここで
カタをつけて
おかねば
ならんだろう
！
全砲門
敵艦橋を
狙え!!
ぎゃあっ!!

KFF

何のつもりだ 狼刃 そりゃ
あんたにこんなこと言える立場じゃないけど
あたしの頼みを聞いてほしいんだ
頼みだと？ 言ってみろ
あたしにまだ健在な戦艦を3隻ほど貸してくれないか？
戦艦を借りたいだと!?
バカ言うな！ こっちだって兵力の大半を失ってるんだぞ！

それは
わかってる
そこを
何とかして
くれないか
頼む！
お…おい
一体
どうしち
まったんだよ
たった3隻で
何する気だ？
実は
雷に殿軍を
まかせてね
IN!
雷!?
あのクソガキにか!!
おまえ正気か!?
数刻前あいつから
敵本陣突入の
入電があった
雷は敵の
後方遮断に
出たらしい
じゃあ
敵の動きが
止まったのは
あいつのせい
なのかよ！
だが 所詮は
1隻だけ
連中が態勢を
立て直すのも
時間の問題だ
だから
どうしても
雷に加勢
してやらねば
ならないのさ

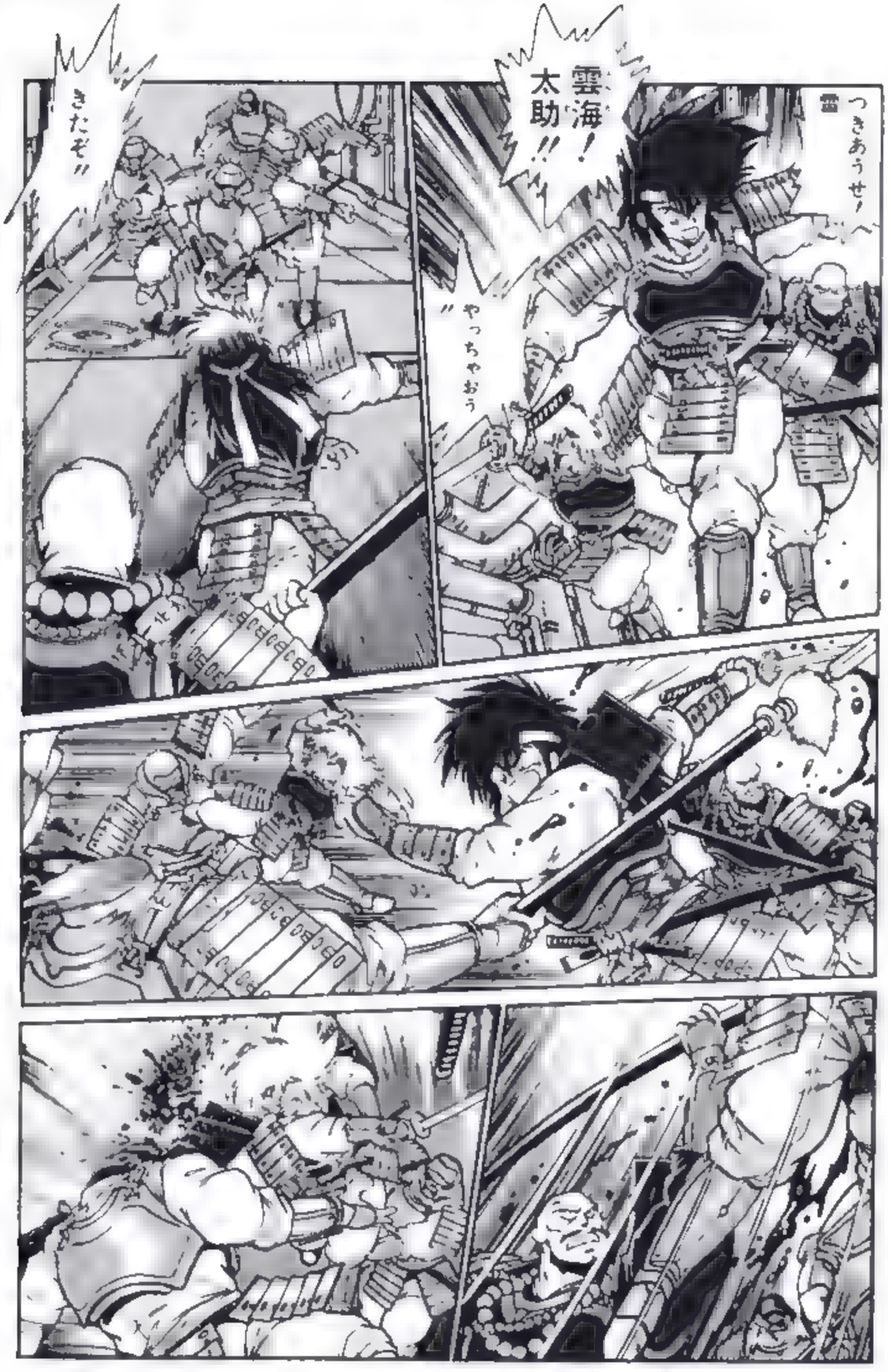
頼む!!
ここで
雷に崩れられ
たら
五丈軍全体が
崩壊する!
艦を貸して
くれ!!
ふん
骸延!
骸山!
はっ
おまえ達は
狼刃に力を
貸してやれ!
わかりました
兄者
骸羅!
残ってる
弾薬を
持たせろ!
艦も
3隻とは
言わずに
5隻でも6隻でも
持ってけ!

弟二人は
とっちも武芸を
たっぷり
しこんである
好きに使え！
骸羅
恩にきるよ
なーに
礼なら
この体で
払って
もらうぜ
図に乗るなよ
毛ムクジャラ！
なんだと
それが恩人に
言うセリフか
この筋肉女！
おらっ！
さっさと
行きやがれ〃
正宗と会って
腰抜かすんじゃ
ねえぞ〃
へん！
余計な
お世話だよ！
狼刃！
なにさ〃
ガキに
惚れるたぁ
まだ若いな
ぶっ〃

さすがは
五丈の精鋭だな
だが 唯の一人も
生かしては
帰さんぞ！

お館様
これでは
指揮できません
他の艦に移って
下さい
いや
その前に
敵の顔が見たい
どんな奴が
指揮してた
のか…

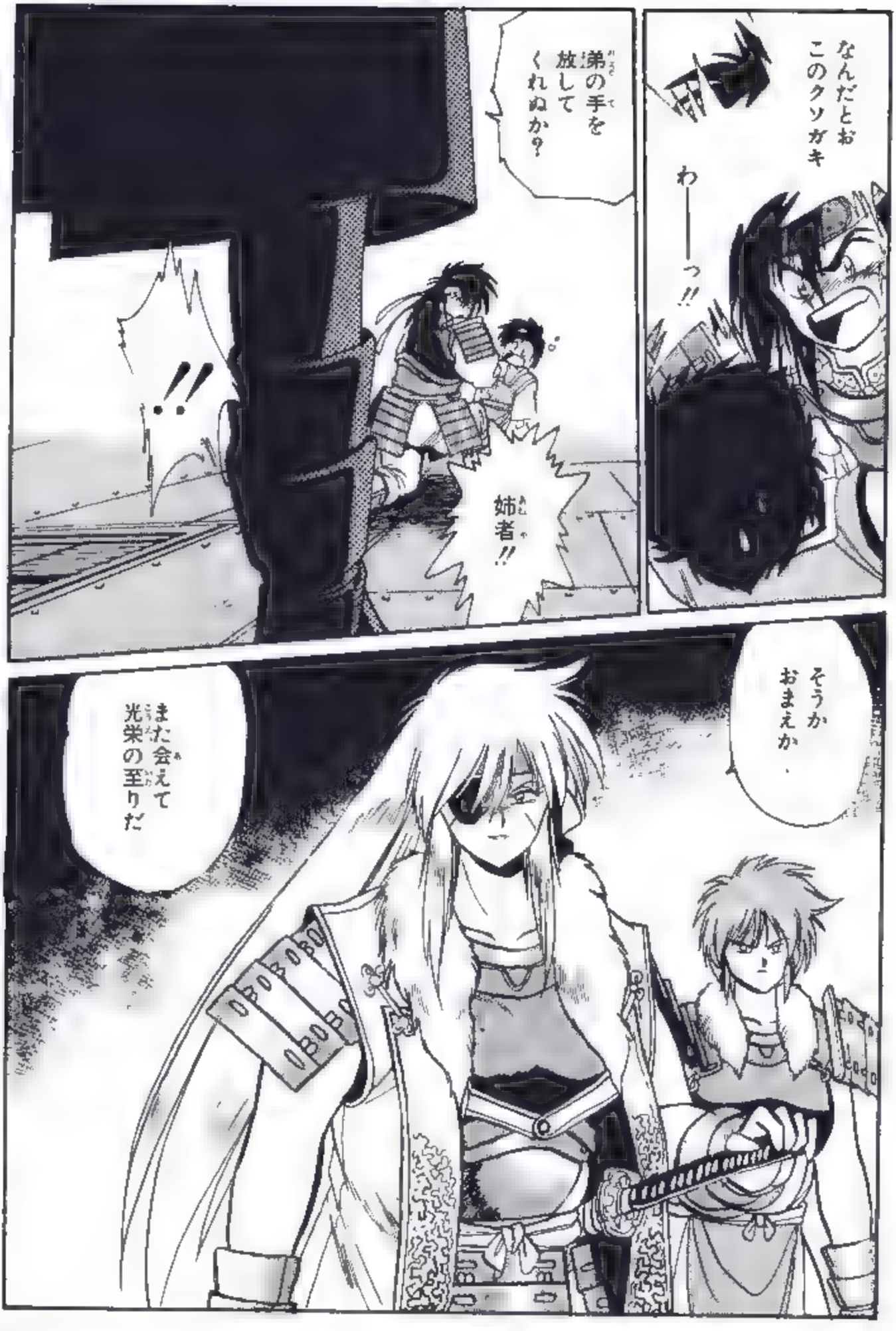
師団長！
ここは俺らに
まかせて
正宗を!!
おうっ!!


つきあうせ！
雷
雲海！
太助!!
〃やっちやおう
きたぞ〃

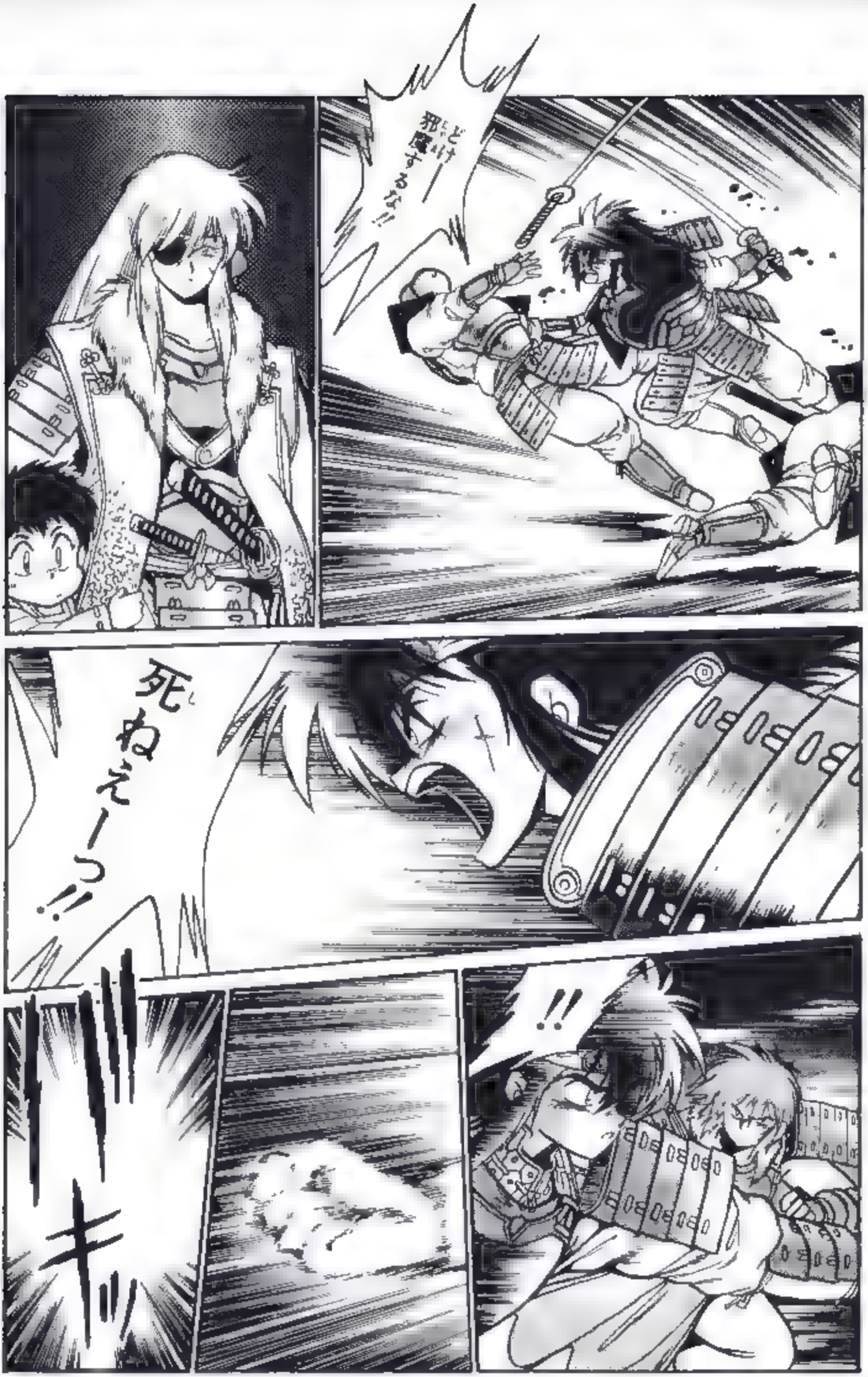
正宗ーっ!!
あっ!!
太助!!
大丈夫だ
たいしたことねえ!
俺が見ててやるから
おまえは行け!!
ああ
ああ

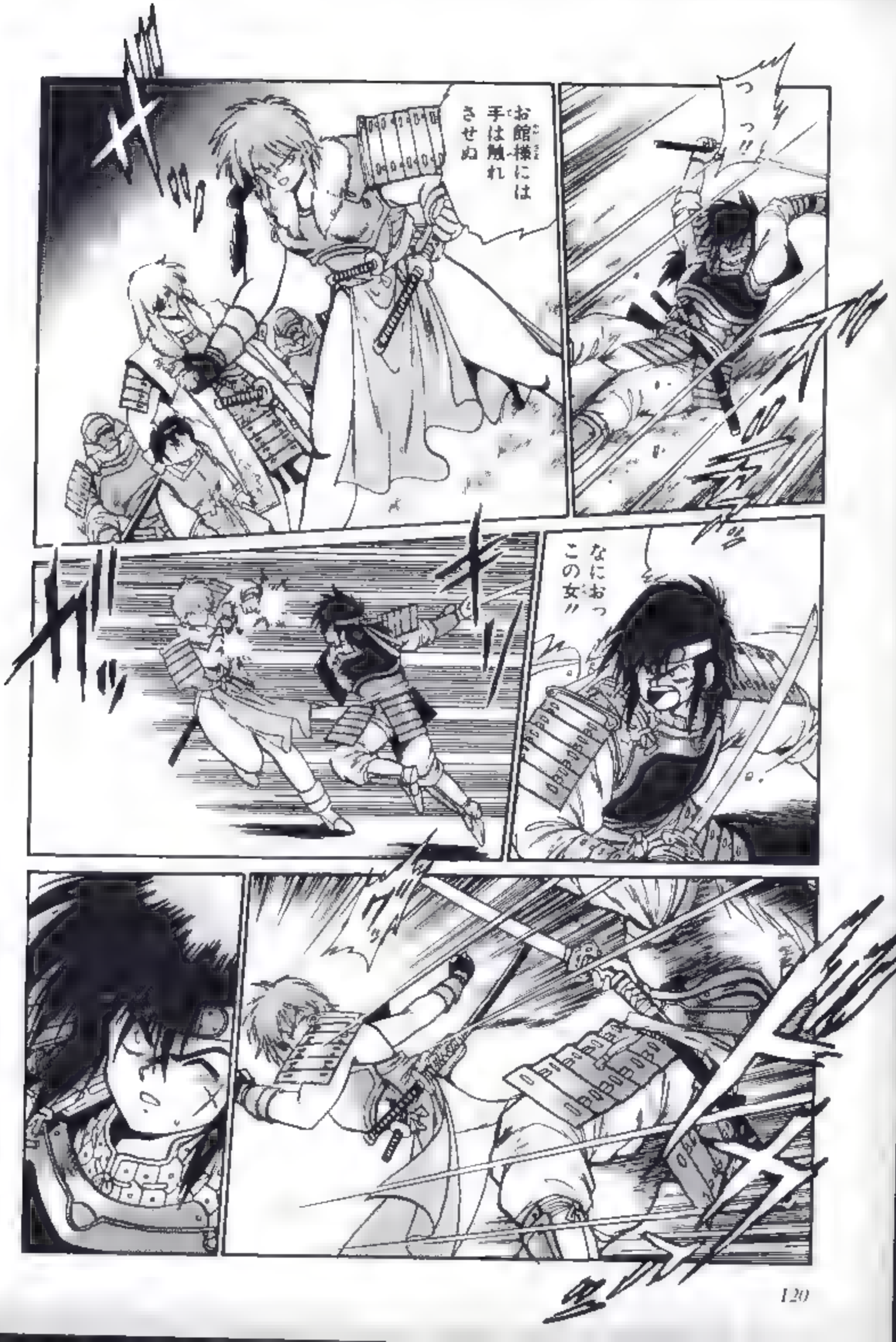
たのんだぜ!!
兄き～
ゴメンよ
大事な時に
役立たなくて
ほらっ
グズグズして
られねえそ!
太助!
ちくしょう
正宗
てできやがれ
ーっ!!
俺が相手
してやるぞ!!

うわっ
とっと
べっ!!
な・なんだ
このガキは?
わーっ
はなせ!
はなせ!
うるせえ!
おいっ
正宗はどこだ!?
無礼者ーっ!!
おまえみたいな
下衆を姉者は
相手しないんだ
ぞーっ!!

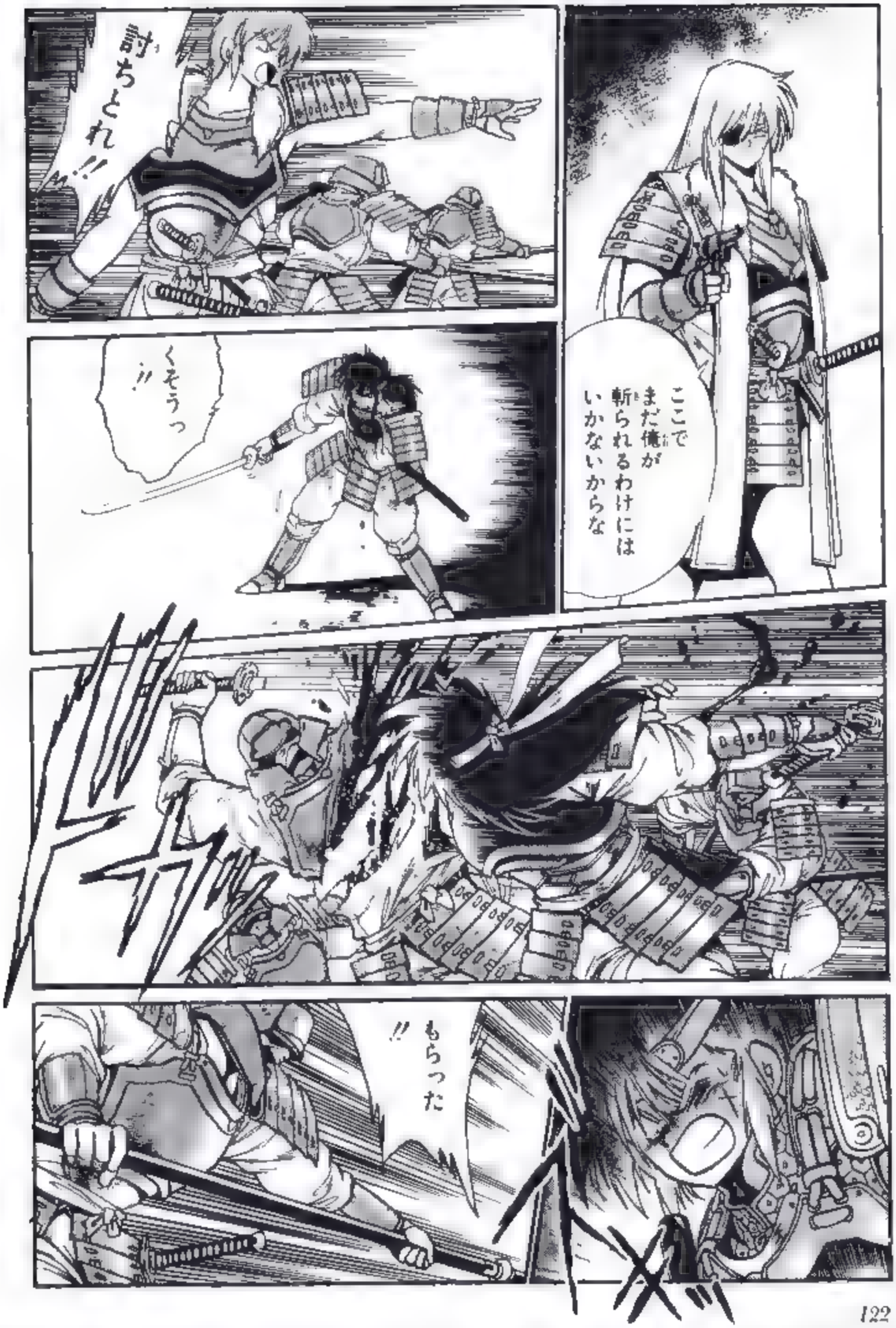

なんだとお
このクソガキ
わ――っ!!
弟の手を
放して
くれぬか?
!!
姉者!!
そうか
おまえか
また会えて
光栄の至りだ

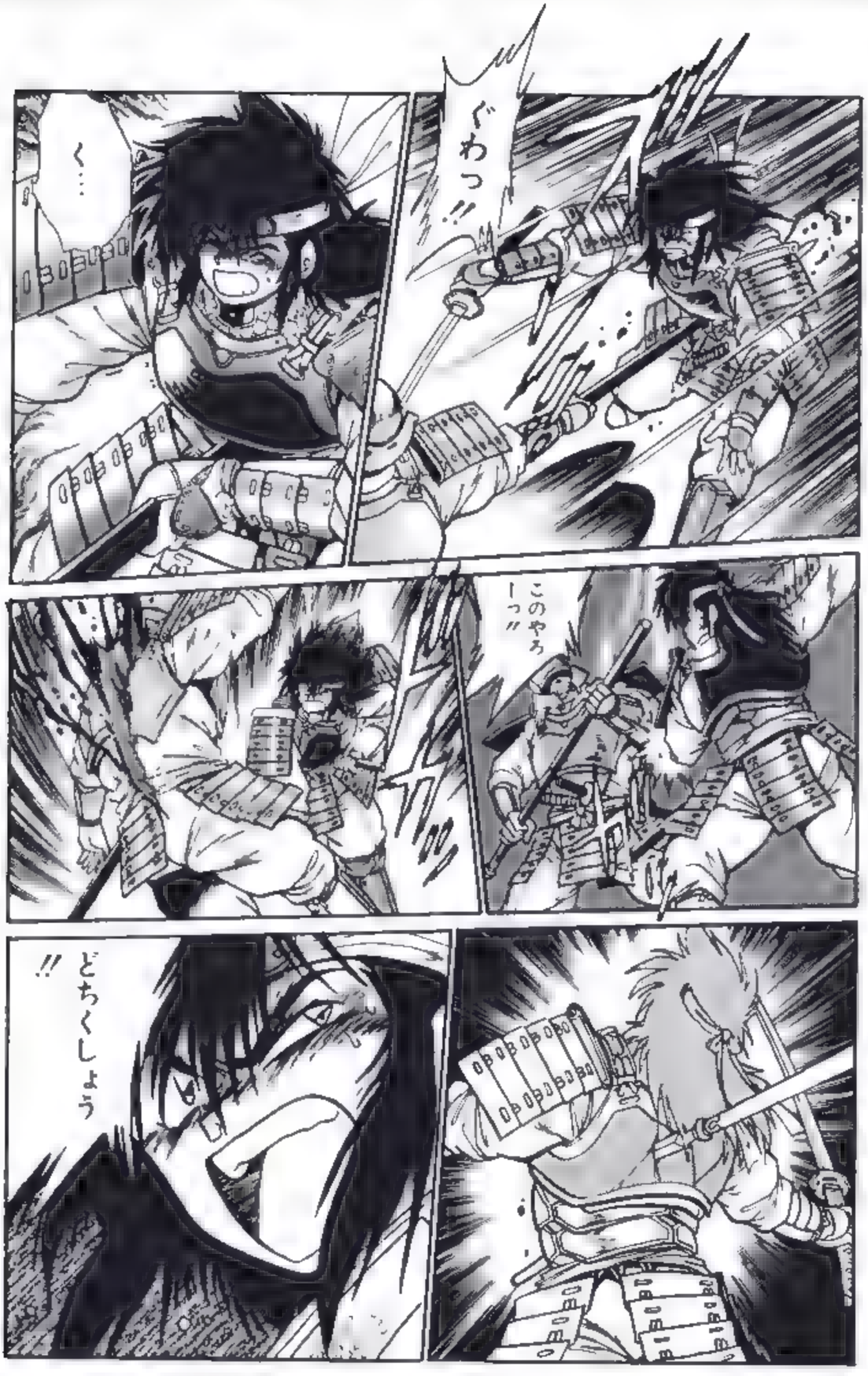
名を聞こう！
五丈軍先鋒
竜我雷！
へっ
会いたかったぜ
独眼竜!!
てめえの
その首！
もらうぜ!!


どけ！邪魔するな！
死ねぇーっ!!
!!

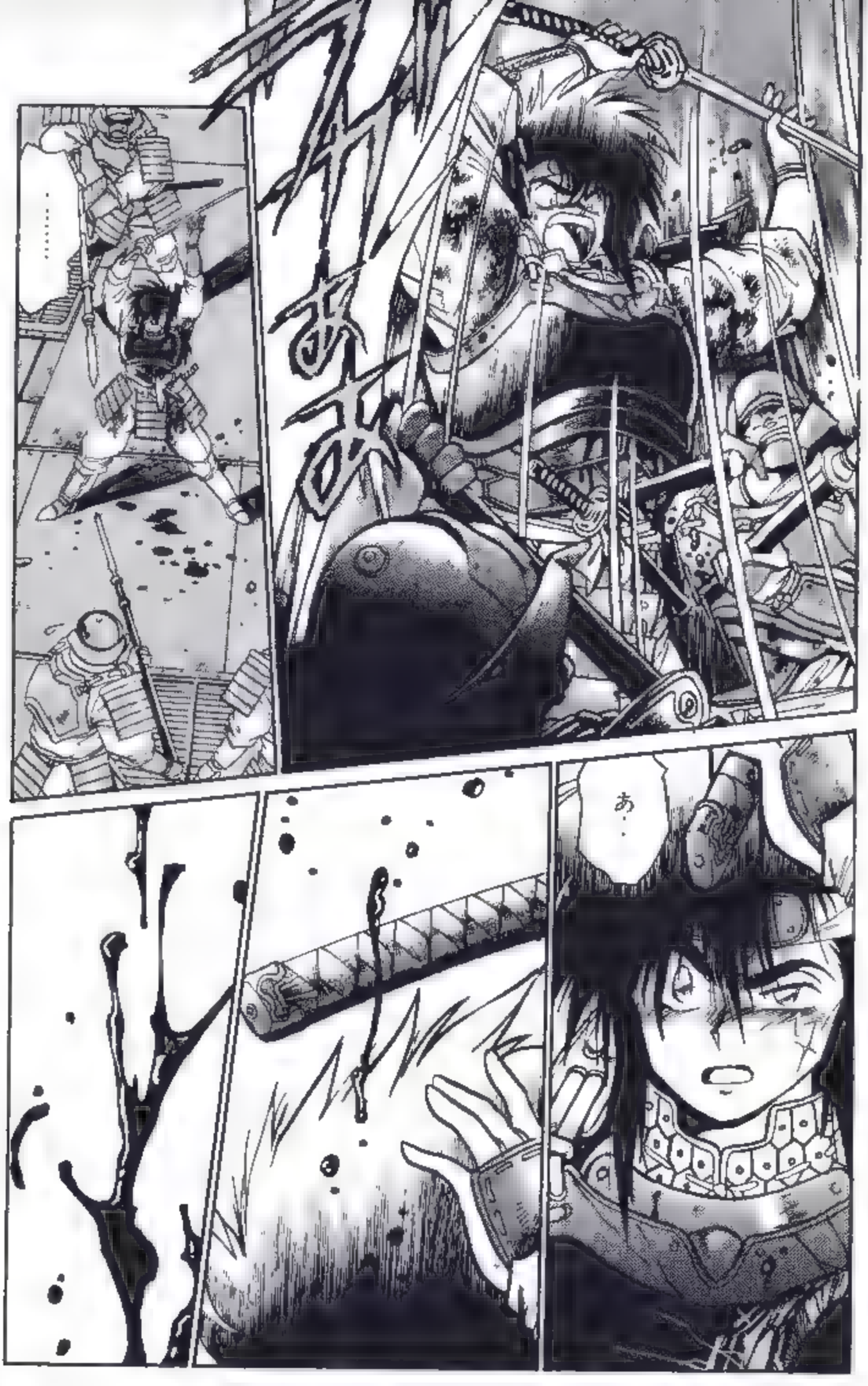

お館様には
手は触れ
させぬ
っ!!
なにおっ
この女!!

くっ
ひきょうな…!!


討ちとれ!!
ここでまだ俺が斬られるわけにはいかないからな
くそうっ!!
もらった!!


ぐわっ!!
く…
このやろーっ!!
どちくしょう!!

やったあ!!

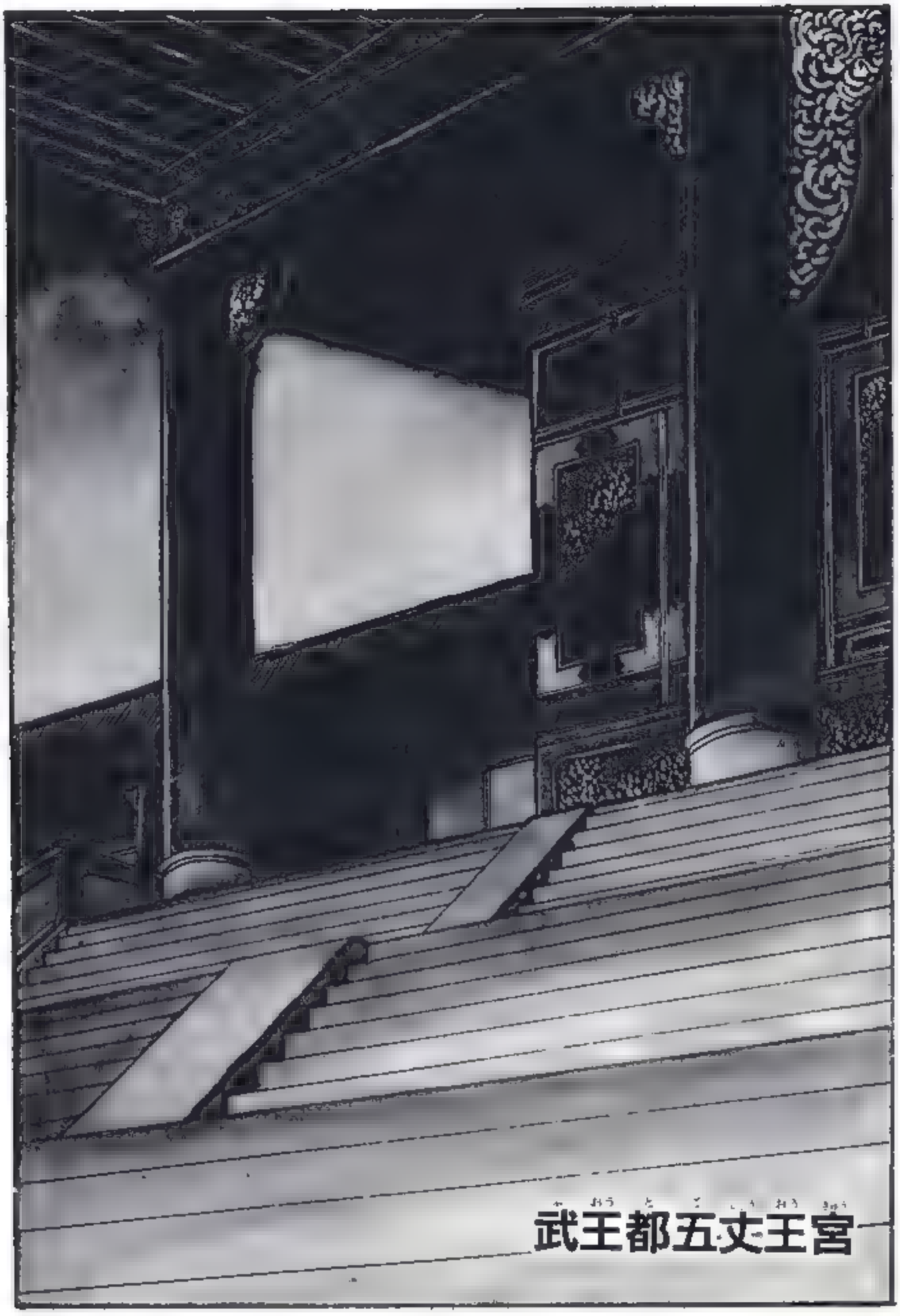

……
あ…

虎丸…
おまえも
こういう男になれ
姉者
こういう
火のような
男にな…
ズ…ズ…
申し上げます!!
敵軍の逆襲です!
すさまじい勢いで
こちらに向かって
きます!!
何!!

雷神に
我々の先に
出るよう
伝えたか!!
は…
しかし雷神公は
敵の殿軍による
反撃を考慮して
進撃は慎重に
すべきだと…
ばかな!
あのタヌキ親父が…
たかだか1隻の
反撃に肝を
つぶしたのか!!
得意の
保身術が
でたな…!!

雷!!
しっかりしろ!!
生きてるか!?
雷兄ーっ!!
うっ
こりゃ
ひでえ
師団長!!
雷!!
おいっ
肩をかせ
救護班!!

こうして
比紀弾正の
南天援攻軍は
ことごとく
撃ち破られ
国境での
苦しい防御戦が
続いた
南天平も
一気に圧丈に
攻め込む戦力がなく
国境に数海里
入ったところで
膠着状態になった
47日間に渡って
南天で吹き荒れた
剣戟の嵐は止み
両軍合わせて
数百万の死傷者が
その戦闘の激しさを
ものがたっていた


武王都五丈王宮

はいやあ——っ!!
どけどけどけ——っ!!

雷!!
雷を知らんか!!
師団長なら重傷者用の病棟におりましたが
ほんまやな!!
あっわや 行しだ!!

雷!
どこやー!!
どけ
どけ!!
ちょっと…

もうっ…
え!?
さあ
降りなよ
あ
ありがとう
ここは
姫さんのような
高貴な方には
似つかわしくない
ところだよ
城まで
送らせよう
いえ
いいんです
会いたい人が
いるので…
あいつかな?
その…
心配で…
なんでも
大ケガ
したとか
ふふ
スミに
置けないね
雷の奴

けど
あんたいい目
してるよ
ほれる相手に
間違いはないね
キャっ
安心おし
あの程度で
くたばりは
しないよ
ズブトイ
神経の持ち主
だからね
ほんと?
雷
どこや!!
生きとんなら
返事せんかい!!
雷!!
姫様!
ここは病院
ですぞ
お静かに!!
うるさい
誰に向かって
口きいとん
のや
このヤブ医者!!
ほう
ワシを
斬るとでも
いいなさるかな
ならば
あなた様が
お捜しの男も
助かりませんぞ
ぇ!?

そ そら
あかんわ
な！
雷を助け
たって
頼むさかい！
さあ
どうですかな
なにしろ
ヤブですから
わ――
ゴメン
もう言わへん
から
はっはっはっ
まあ姫様が
お見舞いなされば
治りも早いでしょうて
あーっ!!
ばかやろー！
もうちっと
ていねいに扱えよ
腹開いちまう
だろ!!
うるせえな
ほんと手のかかる
患者だぜ
いてえもんは
いてえんだよ!!

これじゃ
さぞかし
先生を困らせ
たんだろうぜ
兄き
子供みたい
うるせえ
俺は昔っから
医者と説教は
大っきらい
なんだ
雷!!
え?
ありゃ
姫さん
雷——っ!!
ドキャアッ
わ——っ!!
バカ
いてえよ
姫さん!!
殺す気かよ!
よかった
生きとったんやな
——っ!!
わっ
こら!
どことどこ
やられてん
見してみい!
いたる所
だよ

やばいところだったんですぜ
もう少し上だったら命はなかったところだ
え――っ!!
へっ
そんなに驚くことはねえぜ
この雷様あの程度のヘナチョコ弾でくたばるかよ!
うんうんさすがうちの夫になる男は違うわ～♡
んなこといつ決めたーっ!!
あいててて
バカ野郎～
今宵も二人して激しく燃えようぞ
元気そうだな雷
あーっ俺は元気だよクソッタレ!!
将軍!!
なにがクソッタレだコラ!!

ほら
もうお一人
姫さんの
見舞いだよ
もてるな
あ…
キャ
ヒョー
いいねいいね
女っ気が
増えるってのは
よかった
元気そうで
ポリポリ
え…
ま…
まあな…
おいっ
いて!!
なんか
うちん時と
反応が
違うやんけ!
そ そんな
こと
ねえって!!

ちょい横寄ってや！
ほら
こ…こら入ってくるんじゃねえ！
ちょっと服部ったら彼ケガしてるのよ
そっとしてあげなきゃ
だからええんやないか抵抗てけへんて
とにかく出なさいよ!!
カチン!!
なんやて〃
あんたに言われる筋合いないわい！
きゃーっ!!
やめんか！こんなとこで!!
なんだなんだ女の取っ組み合いだぞ
クス
将軍…

すんません・
もう一歩で
正宗の首とれる
とこだったん
だけどよ・
ドジっ
ちまって・
かまへん!
かまへん!
ようやったで
なー
狼刃!
姫さん!
口はさまんで
くれよ〃
雷
おまえ
本を読んだ
ことあるか?
はあ
ポリ
んなもの
読んだこと
ねえよ
必要ねえしさ
ならいい機会だ
どうせ当分
動けんのなら
しっかり
読書しろ
別におまえに
学者になれと
言ってるん
じゃない
だが勇猛さ
だけじゃ一将の器だ
軍団を率いることは
できん
正宗に勇猛さで
勝っても
南天を陥す
ことには
なるまい?

そりゃそうだけど
なら兵法書と法令集ぐらいは読んどけ
あの骸羅だってそれくらいはしてるぞ
おまえは若いしすぐ身につくさ
読んでて損にはならん宿題だ！
はあ
将軍お時間です
そうか
よーく養生しろよ戦はまだ続くからな
うひっ〃
まかせとけって次の戦の先鋒も俺がいただきだぜ！
フ

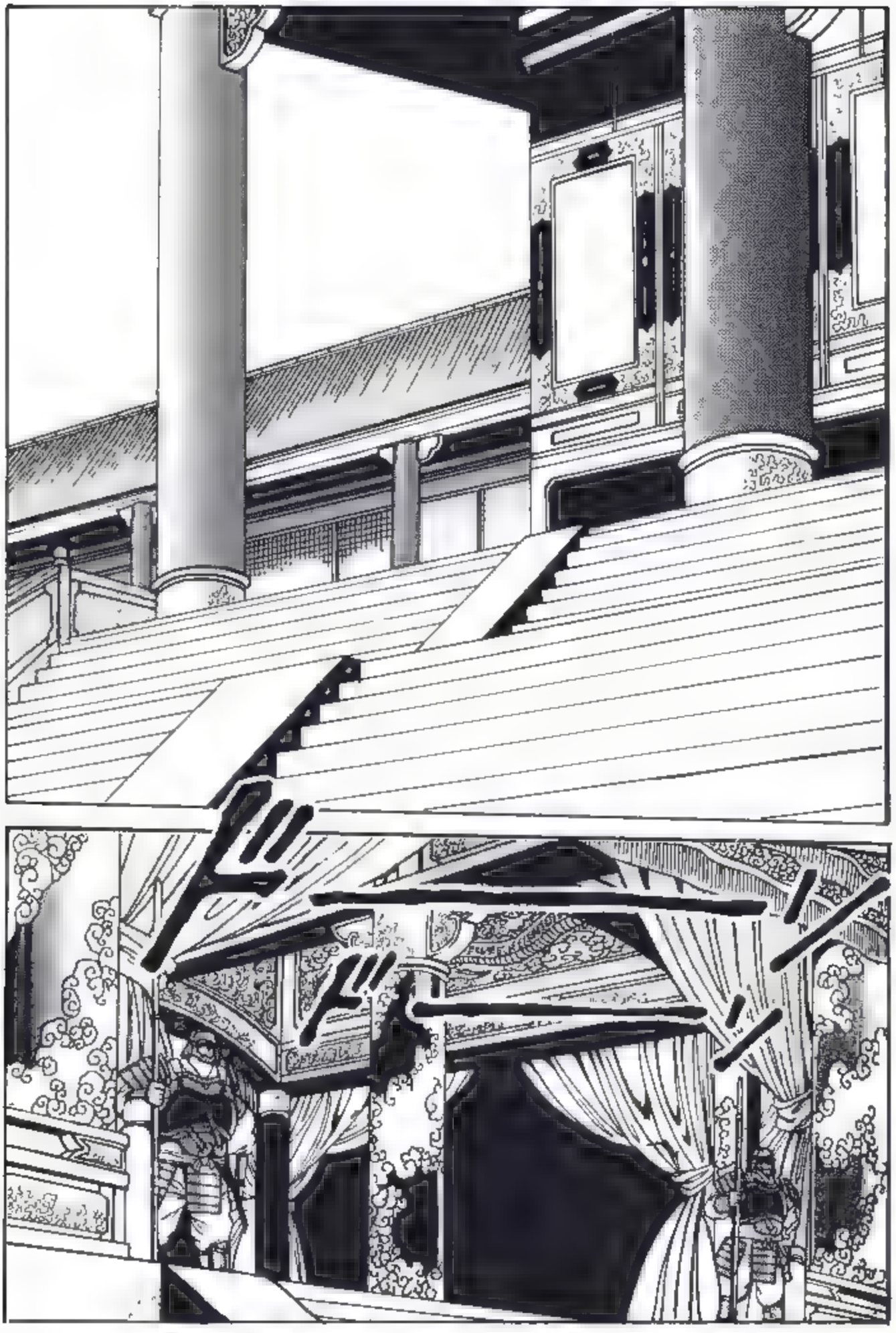
本を読めかあ
やっかいな
宿題だなー
クス
クス
せやけど
狼刃の遺言
みたいなもんやで
せなあかんのと
ちゃう?
遺言?
よせよ
姫さん
縁起でも
ねえ
そう言うたかて
あいつ
これやで
絶対に!
もうすぐ
軍法会議が
あるはずや
今回の南征
失敗の責任を
取らされるで
なんだと
!!
戦に負けたのは
将軍のせいじゃ
ねえよ!
補給が続かな
かったし
本隊がモタモタ
してたからだぞ!!
うちに
どならん
といてや!

ちくしょう
こうしちゃ
いられねえや
!!
つ!!
だ…だめよ
そんな体で
動いちゃ!
傷口が
開いちゃうわ!
うるせえ!
女はすっこんでろ
!!
けど…
雷!!
雷兄き!!

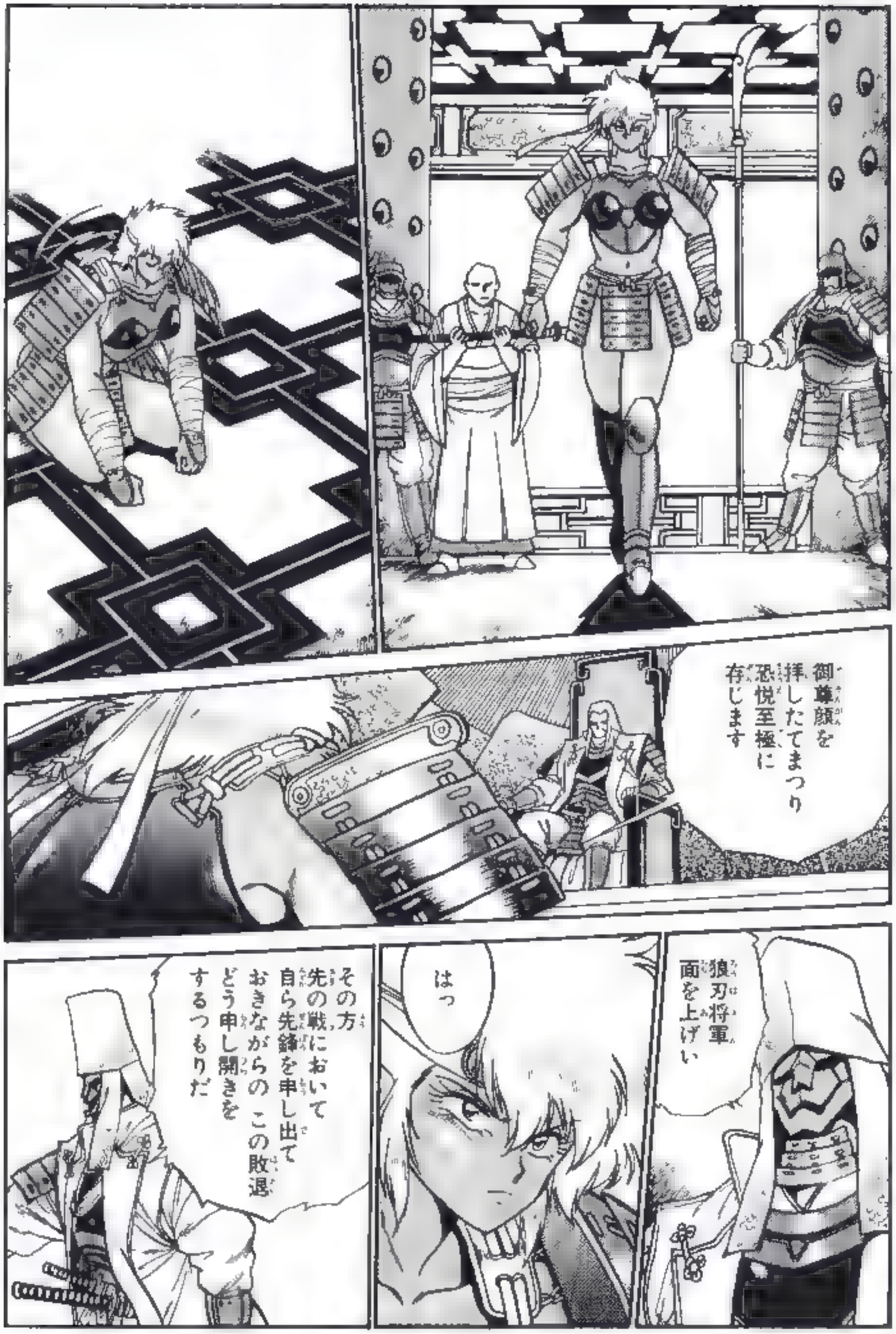
あっこら動いてはいかん
どけ！邪魔するな！
バカ者刀なんぞ持ってどうする気じゃ!!
おいっ手を貸せ！こいつをベッドに縛りつけるんじゃ
どけって言ってるだろ!!
ええいもうどうなっても知らんぞ
このうつけ者が!!

うわっ
〃
どうするつもりだ雷〃
事と次第によっちゃこの雲海入道ここを通すわけにはいかねえぞ！
決まってるだろ！将軍に罪はねえんだ！
その軍法会議とやらをぶっつぶしてやる〃
おまえが行って何ができる
将軍の心証を悪くするだけだ
うるせえとけったらどけよ〃
くそうっ
〃
あっ

ドカッ
アホか
こらっ雷!!
兄きーっ!!
おいっ そこの連中!!
そいつを
つかまえてくれ!!
なんだ
こいつケガ
してるぜ
上から
飛び降りたぞ
ひっ
雷——っ!!
邪魔すると
たたっ斬るぞ
!!



張伏
その方 補給部隊の
全権を持ちながら
その責務を
果たせなかった!!
死をもって
その罪を
償うほかあるまい!!
すみやかに
この者を引き出し
門外で
斬れ!!
参られい!
よし!
狼刃を
呼べい!!
狼刃将軍
参られい!!

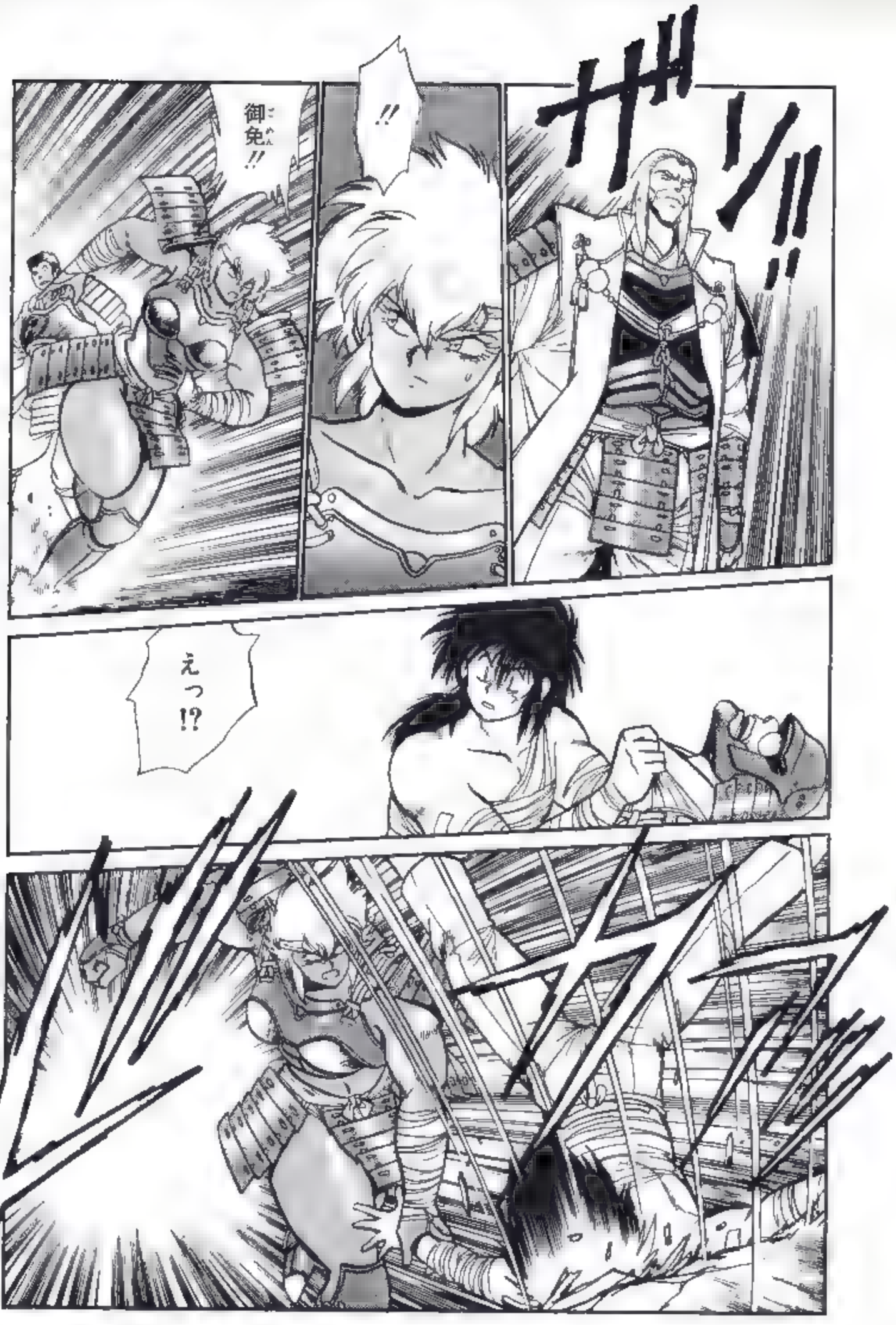

御尊顔を
拝したてまつり
恐悦至極に
存じます
狼刃将軍
面を上げい
はっ
その方
先の戦において
自ら先鋒を申し出て
おきながらの この敗退
どう申し開きを
するつもりだ

謹んで
雷上つかまつり
ます
この度の敗退は
わたしの不明により
起こったもの
何を申し上げても
言い訳に
なるでしょう
では
罪を認め
速やかに刑に
服すると言うのだな
覚悟は
できております
わたしの死罪で
大義を正せれば
本望でございます
…
…
狼刃よ

そなたは
余が兵を
あげた時から
よく余に尽くし
数多くの武功を
たてた
それ故
この度の先鋒を
まかせたのだ
御期待に
こたえられず
申し訳ありません
！
そなたの
長年の忠誠
忘れてはおらぬが
軍律は正さねば
ならん
だが そなたの
部下には
罪は問わぬ
安心せい
はっ
ありがたき
お言葉！
狼刃将軍
!!
功をあせり
全軍を退却に
いたらしめた
罪は重大！
情状酌量の
余地はない！

そなたには
死罪を申し渡す
即刻 門外に
引き出して
斬れ!!
狼刃殿
お立ち下され
!
まてえっ
!!
んなこと
させるかよ!!
雷
!?

てめえら
負けた責任を
将軍一人に
かぶせる気かよ!!
後ろでぬくぬく
してた連中に
そんな資格は
ねえぜ!!
また
あの男か!!
バカ者
下がれ!
何をしておる
この不埒者を
斬れ!!
負け戦は
誰の責任でもねえ!
ここにいる
お偉いさん
全員の責任だぞ!!
俺にだって
責任があらあ!!
斬るなら
俺を斬れ!!


御免!!
!!
ナリ!!
えっ!?

将軍
取り押さえろ!!
ちくしょう
放せ――っ!!
てめえら
ぶっ殺すぞ!!
お騒がせして
申し訳
ありません
乱心者は
捕らえました!
あの男の罪は
わたしが
負います!
わたしの死で
どうかあの男の
罪を償わせて
いただきたい!

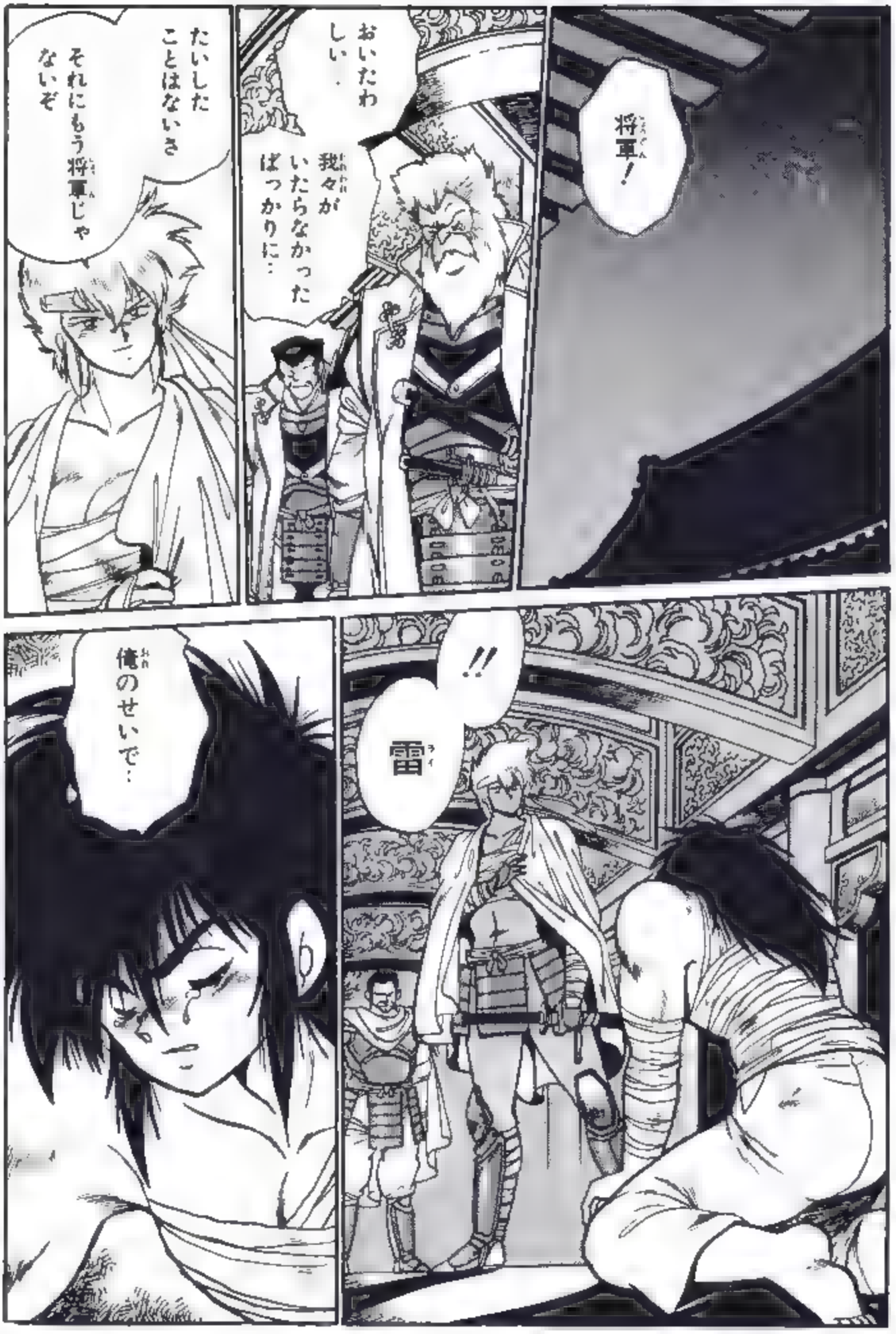
ならぬわ！
一度ならず
二度までも
殿の御前での
狼藉
許し難い！
見せしめの
ためにも
首を斬る!!
ならば
狼刃将軍も
見せしめという
ことに
なりますかな？
何!?
殿！
戦の勝ち負けは
兵家の常！
負ける度に
死罪を申し渡すは
得策とは
申せませぬ
きさま
狼刃と気脈でも
通じて
おるのか!!
軍律なくして
なにが軍隊だ
このような惨敗
死罪と決まっておる
この度の敗戦は
我々上層部の
慢心に
ありますぞ！
敵を見下し
誤った情報を
信じたのは
明らかに
我々の過失！
いかが!?
う・

その我々を信じ死んでいった兵に対して狼刃殿一人斬ってなんの償いになりましょうや！
……
ズンズン
そうだその通りだ!!
玄偉の言う通りだぜ!!
骸羅！
狼刃斬るんなら俺も斬れ!!
かまやしねえ!!
……
殿我々評議衆一同狼刃将軍の助命をお願い申し上げまする
将軍のこれまでの功績を考えてなにとぞ御寛大に…
ならば呂斎そちならどう裁く？
はっ官職を剝ぎ一兵士に落とします

さらに
乱心者の
罪をかぶると
言うなら
百枚の
打ちすえと
すれば
よろしいかと
うむ
それで
よかろう
玄偉
よくぞ申した
おかげで余に長年
尽くしてくれた
将を失わずに
すんだ
はっ
お聞き入れ
感謝いたします
狼刃殿
命は助かったのだ
がまんなされい
いや
死罪になっても
当然の身
ありがたく
お受けいたす
けっ
なんとなく
おもしろく
ねえ
将軍!!
ちくしょう
俺を斬れ!!

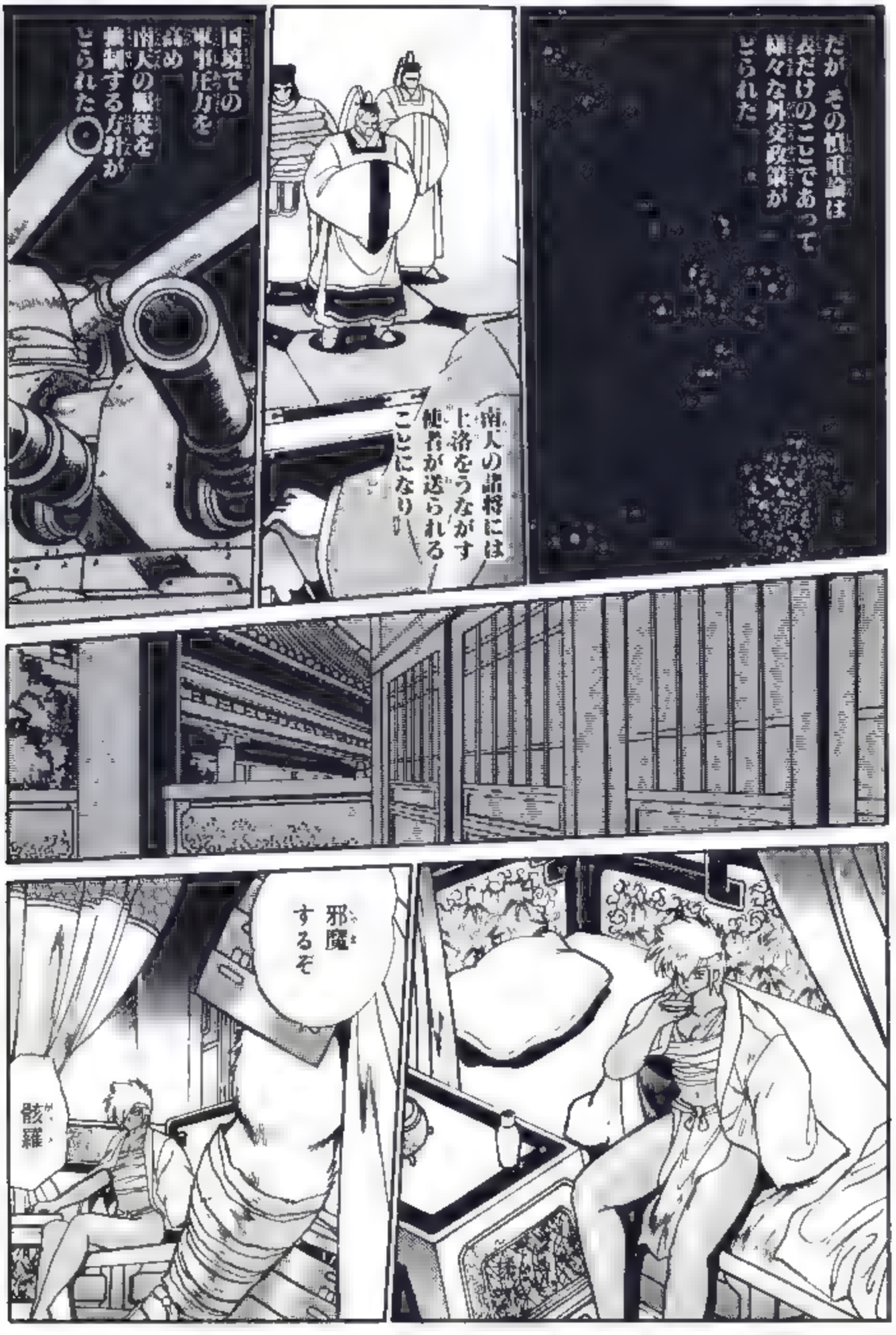
それでは
おう！

将軍!!
ちくしょう!!
終わりました!
ハァ
ハァ
ハァ
よし引っ立てい!!
あの男もだ!!


将軍！
おいたわしい…
我々がいたらなかったばっかりに…
たいしたことはないさ
それにもう将軍じゃないぞ
!!
雷
俺のせいで…

俺の…
雷!!
傷口が開いたようですな
出血で気を失ったようです
すぐ医者に見せてやれ
まあこいつのことだ死にはせんだろうがな
雷
感謝するぞ
……

この後
五丈では
ただちに軍議が
開かれ
今後の政策について
重臣たちが
激論を戦わせていた
再度
軍を編成し
南征を行うという
武官と
国内を固め
戦力の充実を
待つという
文官は
激しく対立したが
この度の敗戦により
慎重論が
勢いづいた
大勢を占めた


だが その慎重論は
長だけのことであって
様々な外交政策が
とられた
南人の諸将には
土洛をうながす
使者が送られる
ことになり
国境での
軍事圧力を
強め
南人の懐柔を
牽制する方針が
とられた◎
邪魔
するぞ
骸羅

なんでえ
なんでえ
お通夜みてえな
顔しやがって
今日は
飲みあかそう
ぜ
どうだ
まだ傷は
いたむか？
ちょっとな
たいしたことは
ないよ
ったく
あんなガキを
かばったりする
からだぜ！
あんだだって
あたしのために
自分を斬れって
いっただろ？
おうよ
自分のバカさ
かげんに乾杯だ！
そういう
ことだね

ふーっ
ったく
ブツブツ
兄き！
な
先生
雷は
とーやねん
今度
やったら
命はないと
思いなさい！
えーっ
そんなに
やばいんか〃
わしが殺す
わい！
まったく
こんなに
手のかかる
患者は
初めて
じゃ〃

智 南帝閣

ねえ姉上
怒ってない？
俺が船に
残ってたことさ！
ははは
なにかと思えば
それか
まあ男なら
仕方ないな
素直に
おまえが
帰るとは
思って
なかったよ
へへへ
でも
今回は
すごかった
なー
五丈軍の
やつらを
片っ端から
ぶちのめして
き!!
あれが
兵法って
やつだぞ
よーく
覚えとけよ
あー
俺も早く
戦いたいなー
まーだまだな
ケツの青いのが
なくなったら
考えてやるよ
ケ・ケツなんか
青くないやい!!
ははは
子供 子供

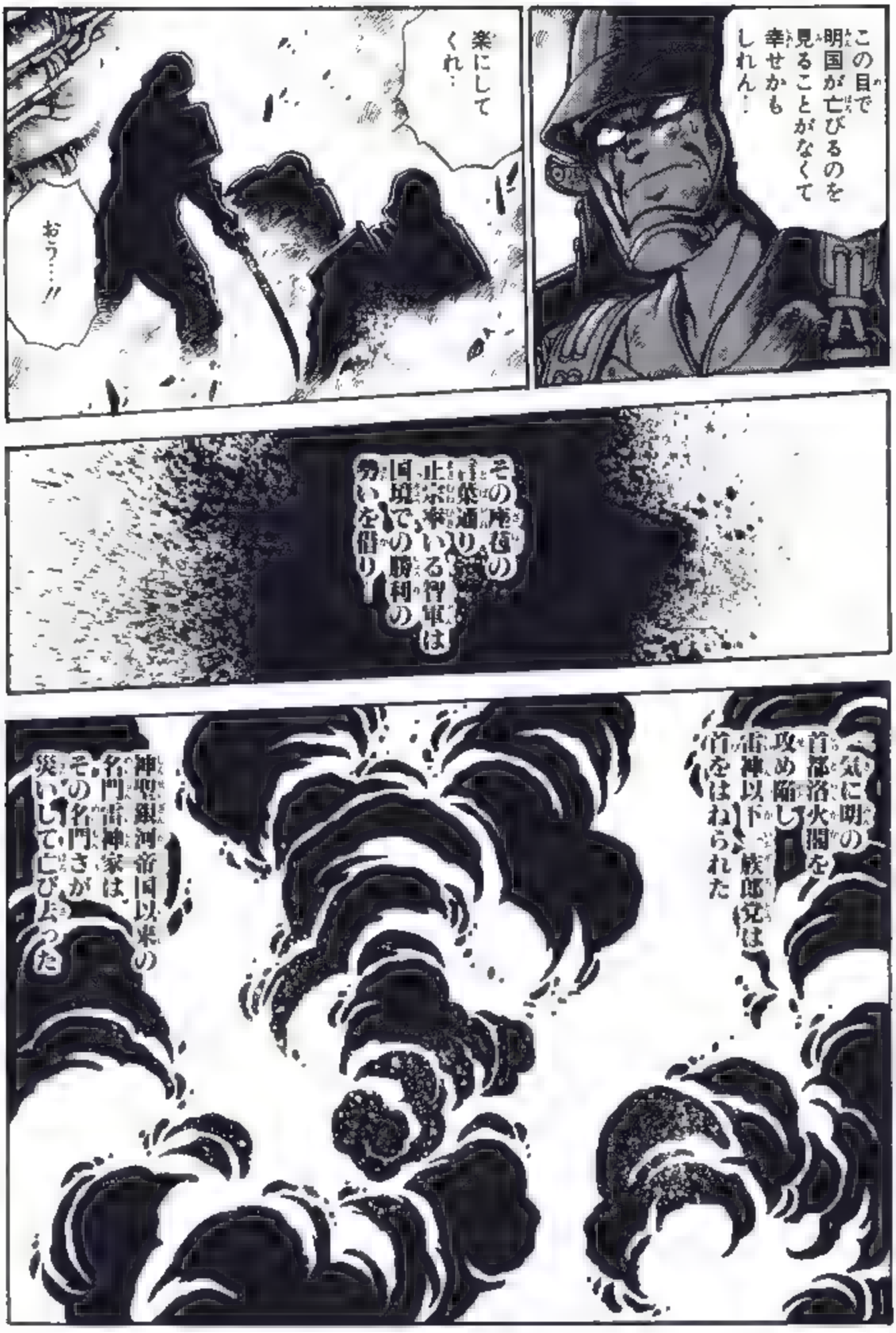
お館様
祝宴の準備が
整いましたぞ！
!!
誰が
そんなことを
命じた！
は…
しかし
臨戦体制を
解くなと
言ってある
だろうが!!
お言葉ですが
今の五丈国に
再度侵攻する力は
ないと思われます
おまえたち
敵は五丈だけ
だと思って
いるのか？
申し上げます
お館様!!
明国が
国境を突破！
各城を襲いながら
南帝閣を目指して
侵攻して
きます！

やはりきたか〃
ご推察恐れ入りましてございます
五丈軍八百万をも退けた我々だ！明など恐るるに足らん〃
全軍に出撃命令を!!
はっ!!

叫国軍主力艦隊は
国境侵入の
最初の戦闘で大打撃を
こうむって撃退された
殿！
この艦は
もうだめです
駆逐艦が横付け
しておりますので
お急ぎを!!
おのれ
正宗がーっ!!

座苞！
はっ
きさま、この戦になにかと批判的だったな。
どうだわしの負けっぷり見事であろう!!
とんでもない戦の勝敗は時の運！それがし正宗の軍勢を甘く見るなと申したまでです！
ええいだまれ！きさまのような奴がおるからこのザマだ!!
きさま正宗と内通しておったな!!
殿！この度の敗戦座苞殿の責任ではござりませぬぞ！
いやならん！こやつ腹の中ではわしのことを笑っとるに違いないわ！許せん!!
ぐわっ!!

この敗北主義者めが
その方この艦に
残れ!!
残って死ぬがよいわ!
行くぞ!!
と…殿
座苞殿
とにかく
止血を
いらん
どうせ
死ぬ身だ
わしは何も
正宗が恐ろしくて
この戦に反対したのではない…
殿は南天の
盟主という
名のみばかり
追いすぎる…
目先の感情のみで
動かれる
この戦でも
そうだ…
敵であった五丈の
誘いに乗り
智を攻めるとは…
雷神様は
天下を狙うには
あまりに狭量
すぎる
所詮
一領主の器に
過ぎなかった!
座苞殿
それは我々も
感じておった
だが
これが我々の
運命かも
しれぬ


この目で明国が亡びるのを見ることがなくて幸せかもしれん…
楽にしてくれ…
おう…!!
その陣営の一糸乱れず止まらない智軍は国境での勝利の勢いを借り
気に明の首都洛火陽を攻め陥し雷神以下一族郎党は首をはねられた
神聖銀河帝国以来の名門雷神家はその名門さが災いして亡び去った

南大最大のライバル剛の嗣嬢をもって正宗による南大支配はほぼ確定した
その強大な力は残る3国の運命をも決定づけた
孟国の叡志はただちに息子を人質に差し出し形ばかりの一将としての身分を保ち
また国主青州を失った趙国は練国からの軍事圧力を受けその援軍として正宗の軍を自国に引き入れることで智の一領土となった

残る二国となった
羅候率いる
練国は智からの
圧力をモロに受け
騒然となっていた
国を開けて
おとなしく南帝閣に
くれば
この俺を領主として
認めるだと!?
この羅候を
なんだと
思ってやがる!!
女のくせに
ちょっと力を
持つとこうだ!
あの高慢な
片目面たたき
のめしてやる!
兵を集めろ!!

おまちくだされ
まさか若君は
智国との
戦を始める気では
ないでしょうな
それが
どうした
当然だ!!
落ちついて
くだされ
我が練は
小国
とても正宗に
立ちうち
できません
なら
この俺に
正宗に頭を
下げてこいと
いうのか?
今は
その方が得策です
殿はまだお若い
時が来るのを
お待ちくだされ
腹も立ち
ましょうが
練国八億人民を
戦火に巻きこむの
だけは
お避けくだされ
人民を
守るため
あえて
恥を受け入れる
のも
国主としての
務めで
ございましょう
……
……

くそうっ
!!
カッ
もし今父上が
生きておられたなら
織田は天下をにらむ
一大強国になって
いただろう
あんな
女の下風に
立つなぞ決して
なかった
!
なのに
俺の代になって
このありさまだ
!
父上にくらべ
この俺は
あまりに
ふがいないしゃ
ねーか!
若君…

よし
南帝閣に
行くぞ！
！
だが
これだけは
覚えておけ!!
俺は
正宗の力に
屈したわけじゃ
ねーぞ！
天の声が
時の流れが
この俺に
味方したなら…
俺が
天下を狙う!!

COMP COMICS DX

銀河戦国群雄伝ライ③

著者——真鍋譲治

1991年9月5日　初版発行
1992年9月5日　6版発行

発行者——角川春樹
発行所——株式会社角川書店
〒102 東京都千代田区富士見2-13-3
電話03-3817-8521(営業) 03-5228-1731(編集)
振替口座　東京3-195208

装幀——朝倉哲也+design CREST
印刷・製本——共同印刷株式会社

©JOJI MANABE 1991　禁・無断転載・複製

初出／月刊コミックコンプ90年11月号～91年3月号

落丁・乱丁本はお取り替えいたします
ISBN4-04-712017-0 C0379
Printed in Japan

めたもる伊介
❶〜❷
中津賢也

西遊少女隊
❶
山本貴嗣

宇宙英雄物語
❶〜❺
伊東岳彦

COMP COMICS
コンプコミックス B6判
既刊ラインナップ

1・2・3で
キメてあげる
❶〜❺
大宮直依

ヤンキー
❶〜❻
山本よしふみ

刑事剣士
Xカリバー
❶〜❹
藤原昌幸